
北海道運輸局管内における
離島航路の在り方に関する調査等業務
報告書

令和6年1月

国土交通省 北海道運輸局

目次

第1章 本業務の背景・目的	2
(1) 羽幌航路を取り巻く状況	2
(2) 離島航路の重要性	5
(3) 本業務の目的	6
第2章 公共交通体系における羽幌航路の状況	7
(1) 公共交通体系の状況	7
① 既存計画のレビュー	7
② 本事業で分析する公共交通体系	19
③ 貨物輸送の状況	20
(2) 路線バス・高速バスの利用実績	21
(3) 利用者・関係者の現状・課題	22
① ヒアリング結果概要	22
② 乗船客アンケート結果概要	24
③ フェリーターミナル実地調査	26
第3章 公共交通体系における羽幌航路の状況	27
(1) 公共交通体系としての課題	27
① 各調査結果のまとめ	27
② 課題の全体像	28
(2) 解決の方向性	29
① 離島航路の維持・活性化に向けた力を集約するための体制をつくる	29
② 自然豊かな島の魅力を発信し、保全に係る努力に共感を集める	29
③ 島のベースキャンプとしてフェリーターミナルを位置づけ、船に乗らない方にも魅力を伝える	29
④ 情報の整理・見せ方の改善によって、はじめての方にもフェリーを親しみやすくする	29
(3) 各施策の内容	30
① 関係者の連携強化	31
② 外部のファン取り込み	32
③ モデルコース作成・発信	33
④ 保全協力金・募金	34
⑤ 本土と島の関係強化	35
⑥ 羽幌港で島の写真掲出	36
⑦ フェリーの乗り案内	37
参考文献	38
付録	40
(1) アンケート調査	40
(2) 羽幌港実地調査	56
(3) ワーキンググループ開催概要	59

第1章 本業務の背景・目的

(1) 羽幌航路を取り巻く状況

天売島・焼尻島の人口は約20年で半減しており、本土よりも急速に人口減少が進んでいる(図1)。2003年から2022年の20年間の人口減少率は、天売島で39.4%、焼尻島で54.5%と、焼尻島の人口減少が特に顕著である。

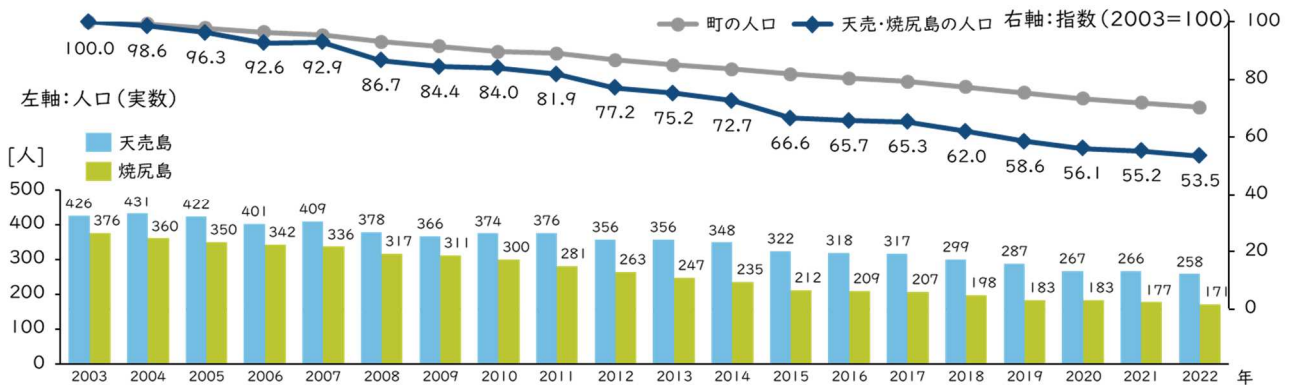


図1 天売島・焼尻島の人口推移(2003年～2022年)¹

長期的な推移をみると、天売島・焼尻島の人口は1950年の4,881人をピークに減少を続けており、2020年には430人と、1950年の1割未満まで減少している。この減少幅は、北海道の他の離島(利尻・礼文・奥尻)と比べても顕著である(図2)。

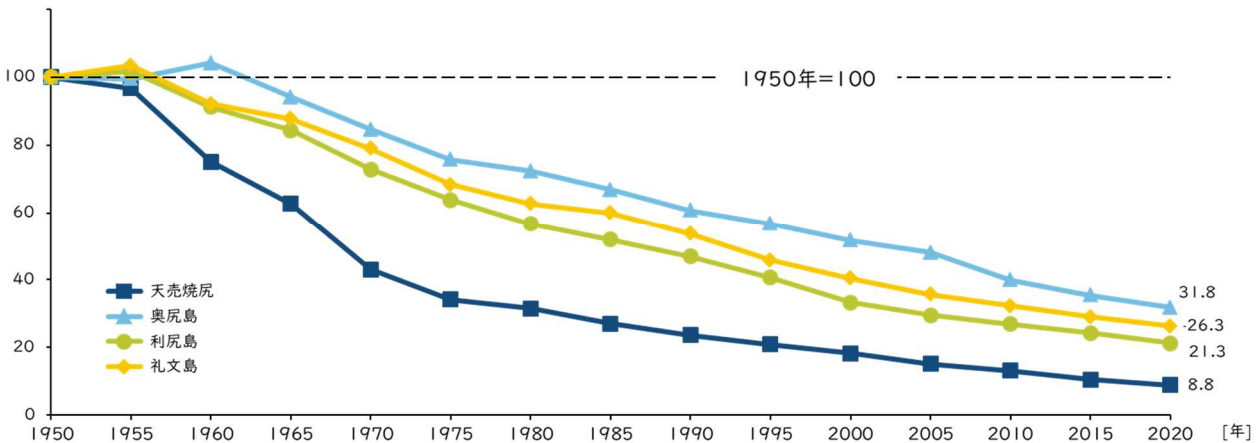


図2 北海道の離島における人口推移(1950年～2020年)²

観光入込客数は、1980～1990年代の離島ブームをピークとして1995年以降ほぼ一貫して減少し、近年は最盛期の1/3程度で推移している(図3)。観光客数の減少と人口の減少が同時に進んでおり、定住人口・交流人口がいずれも減少しているといえる。

羽幌町が2012年に実施したアンケートでは、観光よりも医療・福祉や産業振興に関する関心が高く、当時の

島民の観光に対する関心は必ずしも高くない。現在の人口は 2012 年時点よりもさらに高齢化・減少が進んでおり、観光に取り組む余力がさらになくなっていることが想定される。同アンケートで「島の観光振興のために優先すべきこと」は、島民・本土住民いずれも「交通費（フェリー運賃）の低価格化」が最も多く、「離島へのアクセス改善」が続き、フェリーに対する課題感が大きい（図 4）。

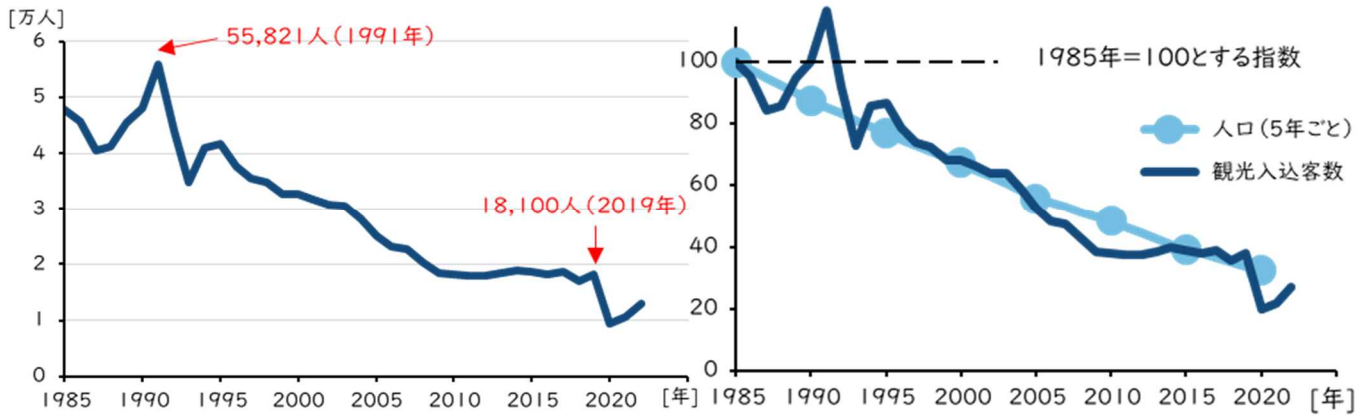
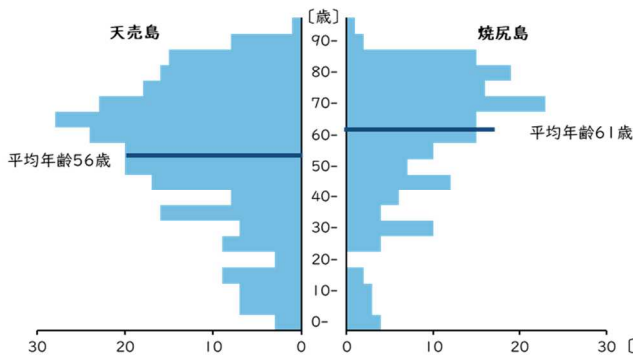
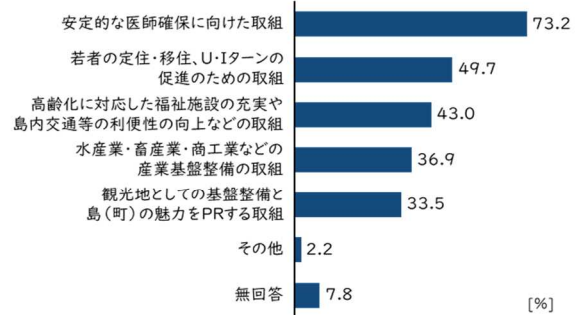


図 3 天売島・焼尻島への観光入込客数の推移と、島の人口との比較(1985年~2022年)³

天売島・焼尻島の人口構成 (2020)



島での生活を維持していく上で優先すべきこと (2012) ※島民



島の観光振興のために優先すべきこと (2012)

どのような島にしていきたいと思うか (2012) ※島民

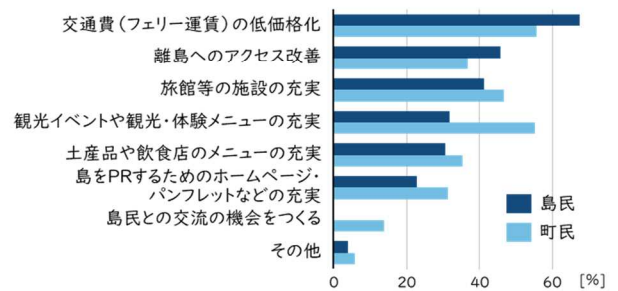
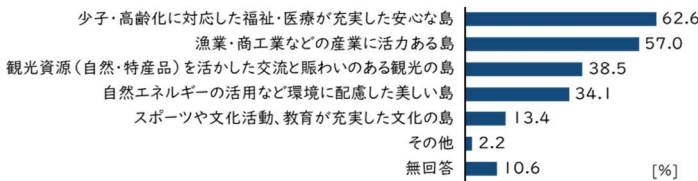


図 4 天売島・焼尻島の人口構成⁴と住民アンケート⁵

フェリーの利用者数は、コロナ前の2019年でも2000年比2/3程度まで落ち込んでおり、長期的に減少傾向が続いている(図5)。2020年、2021年はコロナ禍の影響でおよそ半分まで減少した。

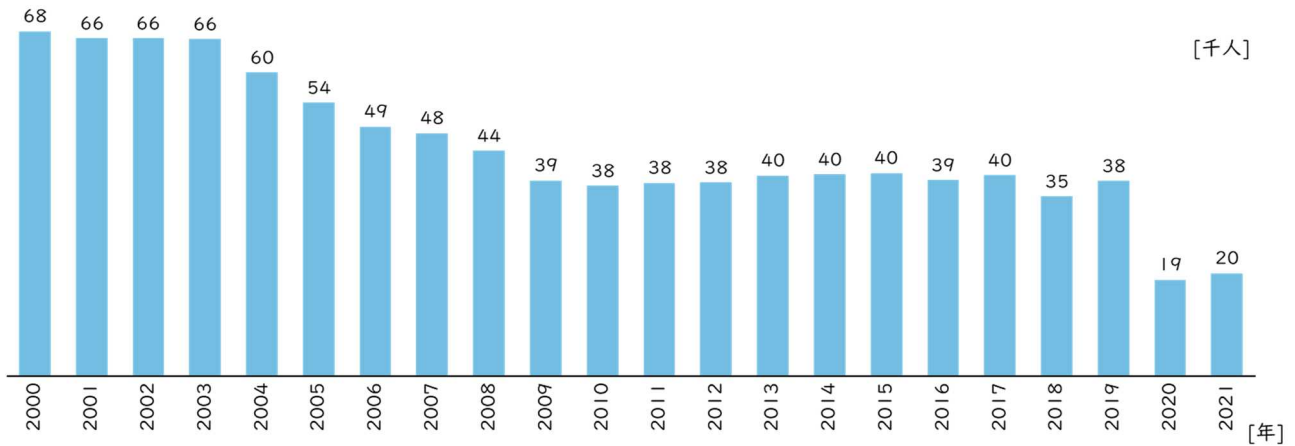


図5 羽幌沿海フェリー利用者数の推移⁶

フェリーの欠航率は、冬季で高く、50%近くになる場合もあるが、夏は比較的安定しており、7月はほとんど欠航がない(図6)。10月から4月は1日1便運航のため、欠航が続くと数日間本土との往来が途絶えることがある。一方で、夏季は複数便出航しているため、1日中欠航となること(完全欠航)は少ない。

高速船は、ほとんど欠航のない月もあれば、過半数が欠航となった月もあるが、月ごとに平均すると1割から3割前後で推移している。

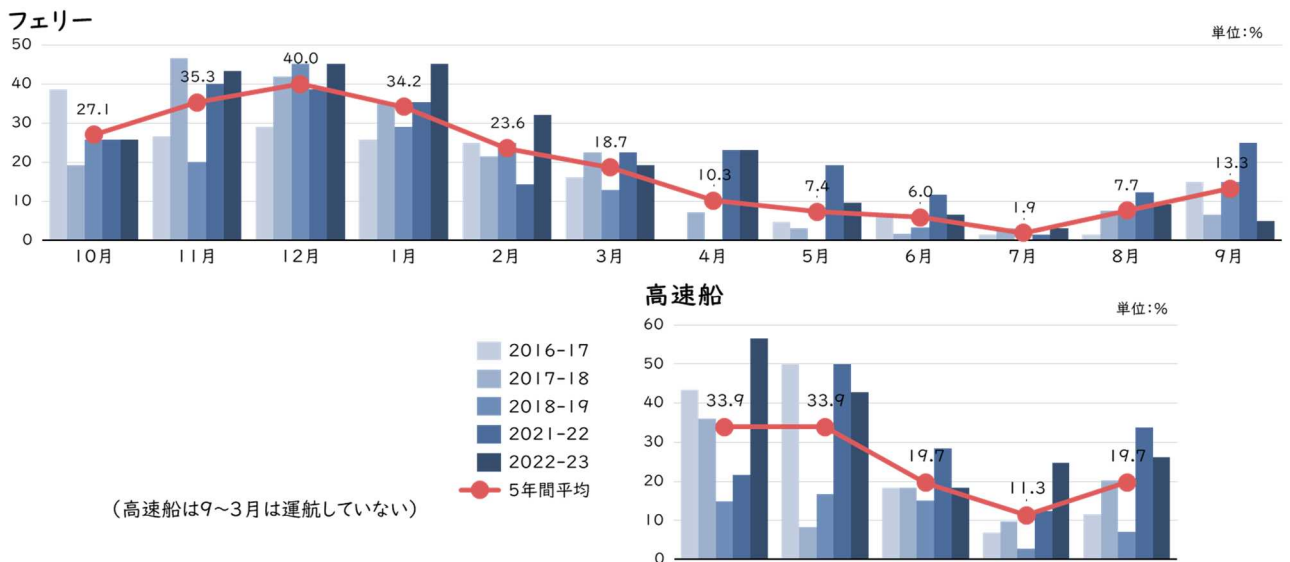


図6 羽幌沿海フェリーの欠航率(2020・2021年度)⁷

(2) 離島航路の重要性

陸上輸送では、公共交通手段が複数あるほか、自家用車や貨物車両など様々な輸送手段が選べ、一つが利用できなくなっても代替手段や迂回等によるルートの確保が可能なが多い(図 7・図 8)。

しかし、離島航路ではすべての輸送をフェリーに頼らなければならず、特に航空路線のない小規模離島等ではフェリーは離島の生活の生命線ともいえる。

天売島・焼尻島は航空路線がなくフェリー1路線のみが就航しているため、交通手段の代替性が低く、欠航による生活への影響が大きくなる。

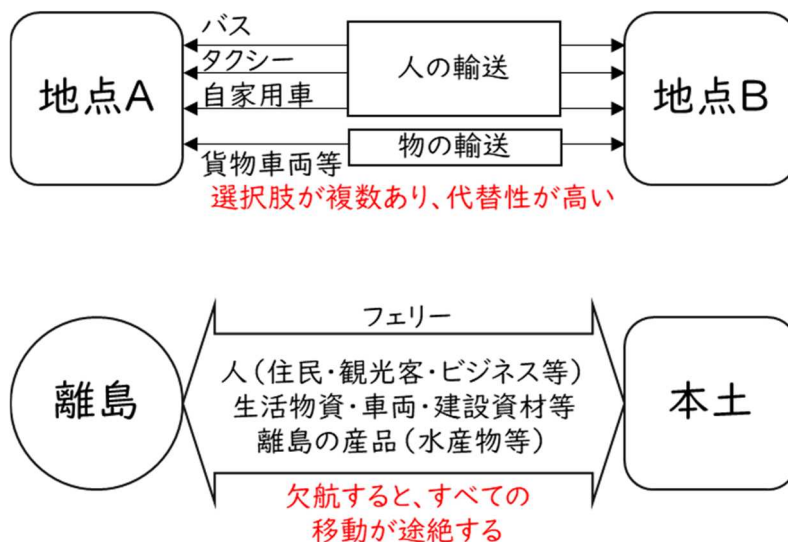


図 7 離島航路の位置づけ⁸

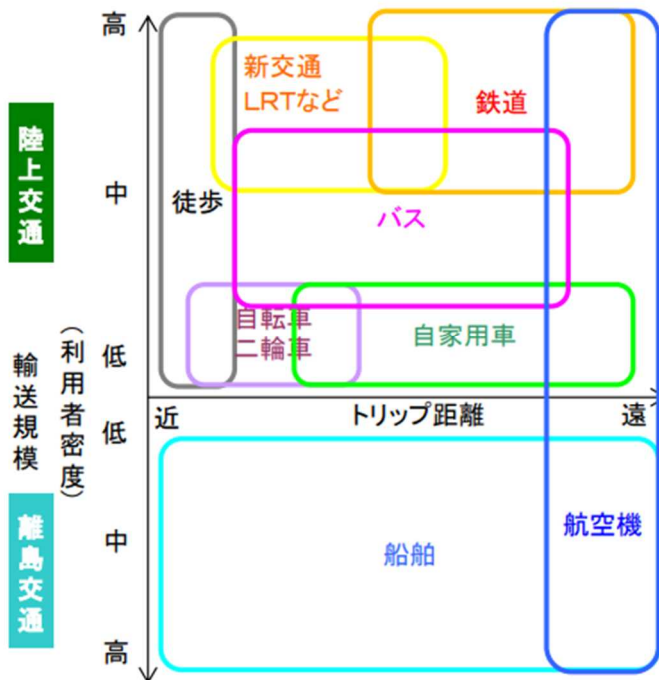


図 8 離島交通の代替性⁸

(3) 本業務の目的

仕様書に記載された業務の目的は以下の通り。

離島航路は島民の生活や離島観光に欠かせない交通であるが、人口減少、少子高齢化が進む中、住民の移動ニーズのみでは航路の維持が難しく、また、旅行者の移動手段として利便性が高いとは必ずしも言えない。そこで、北海道運輸局管内にある5つの離島のうち比較的規模が小さく、航路維持が難しくなっている「天売島」「焼尻島」において、利用者のニーズや交通事業者の課題を整理し、北海道運輸局管内の離島航路の在り方に関する施策を検討・提言するための調査を実施する。

本業務は、離島航路に関わる住民・観光客・事業者・行政それぞれの視点から現状・課題を把握し、解決に向けた実現可能性の高い施策を提案する。

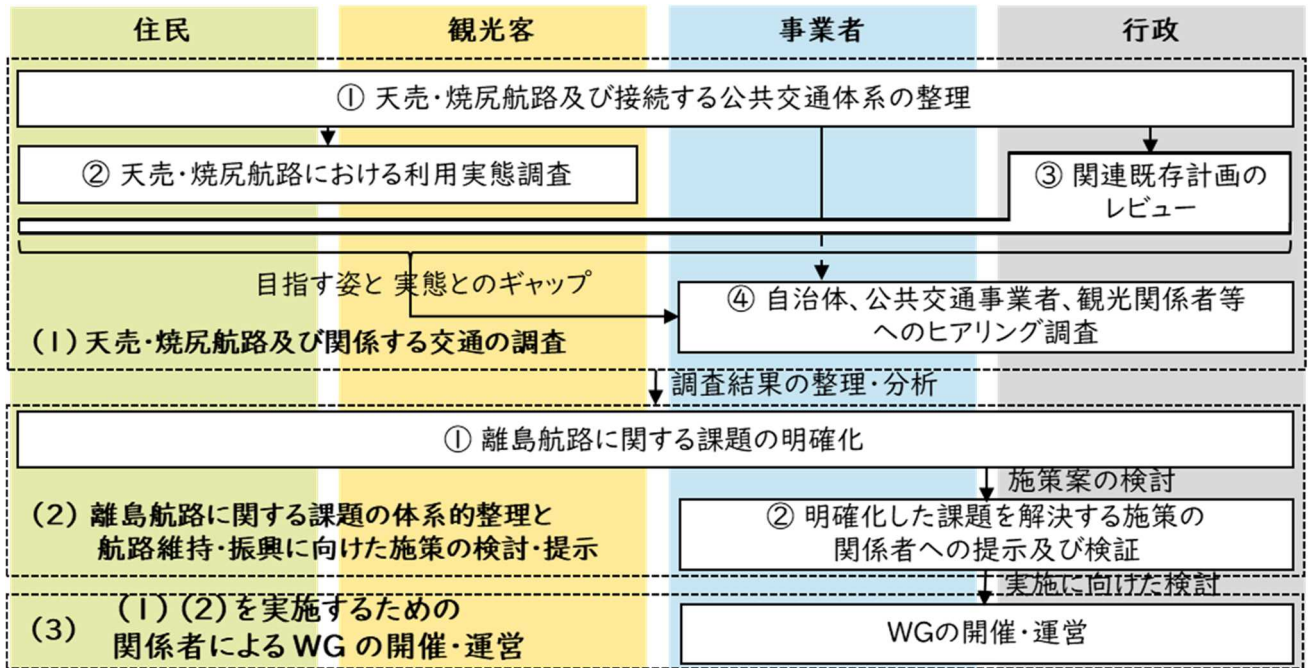


図 9 本業務の全体像

第2章 公共交通体系における羽幌航路の状況

(1) 公共交通体系の状況

① 既存計画のレビュー

天売焼尻航路の位置づけや、これまでの関連施策を確認するため、国・道・町が定める既存計画を確認した。

表 1 レビューした計画

策定者	計画の名称	年次	概要
離島・地域振興			
国	離島振興基本方針		離島における産業などあらゆる分野の振興にむけた基本方針
北海道	北海道離島振興計画	2023～ 2033	『個性豊かな魅力に満ちた 幸せを共感し合えるしまづくり』を目標とした5本の柱建てによる施策を実現するための指針
羽幌町	第2次羽幌町離島振興計画	2023～ 2033	天売・焼尻両地区の将来を見据えた島づくりの基本目標を掲げ、実現に向けた方策と手段をまとめた総合的な指針
羽幌町	羽幌町エコアイランド構想	(2014～)	島からの地球環境の維持に向けた積極的な取組として情報発信できる「エコアイランド」を目指していくための構想
羽幌町	第7次羽幌町総合振興計画	2022～ 2031	羽幌町における産業や福祉、環境保全などのあらゆる分野の基本目標と方針をまとめたもの
羽幌町	羽幌町過疎地域持続的発展市町村計画	2021～ 2025	人口減少に係る現況の整理と課題解決見抜けた基本方針を策定し、移住施策や環境整備に関する施策等をまとめたもの
羽幌町	羽幌町都市計画マスタープラン	2008～ 2027	
産業・観光振興			
北海道	第5期北海道観光のくにづくりに行動計画	2021～ 2025	観光に関わるすべての関係者が連携・協働して観光振興に関する施策を総合的、計画的に推進するための基本的な計画
交通			
北海道	北海道交通政策総合指針重点戦略		「北海道総合計画」の「特定分野別計画」として位置づけ、北海道の交通政策の基本指針となるもの
北海道離島航路確保対策協議会	離島航路確保維持計画(羽幌航路)		地域公共交通確保維持改善事業の実施にあたり、目標や施策等を定めるもの
留萌振興局	北海道留萌管内地域公共交通計画	2023～	地域における移動手段の確保や地域公共交通の充実を図るために策定されたもの

離島・地域振興に関するもの

1) 離島振興基本方針⁷⁾

離島振興基本方針は、離島地域の国家的な役割安定を図るための基本的な指針及び地域が定める振興計画の策定にあたって指針となる14項目を定めている(表2)。

◆離島航路に関連する施策・現状認識

離島地域の国家的な役割の維持を安定的かつ継続的に実施していくため、離島地域が抱える人口減少・高齢化などによる深刻な地域課題への取組が必要とされている。定住の促進等を図るために基礎条件の改善及び地域間の交流の推進といった取り組みは非常に重要であることから、本方針は、離島地域の振興に向けた、産業・医療・教育全般の離島地域の根本課題の解決に対する基本指針として位置づけられている。

◆国の支援の基本的な考え方

国は、離島の国家的国民的役割が発揮されるよう、厳しい自然的社会的条件の改善、地域間交流の促進、居住するものない離島の増加及び著しい人口減少の防止並びに定住の促進を基本理念とし施策を実施することを定めている。また、都道府県は自然的社会的諸条件に応じた離島振興のための市町村相互間における広域的な連携の確保や、必要な情報提供などの援助を行うよう努めている。

本方針では離島振興計画の策定にあたって指針となるべき基本的事項として14の事項を掲げている(表2)。

表2 離島振興計画の策定にあたって指針となるべき基本的事項

1	基本的な事項(交通)	交通体系の整備/人の往来などに要する費用の低廉化/船舶の新造及び更新等/高度情報通信ネットワークなどの充実
2	基本的な事項(産業)	農林水産業の振興/水産動植物の飼育環境の保全及び改善/地域資源などの活用による産業振興等/場所に制約されない働き方の普及等
3	雇用機会の拡充、職業能力開発及び就業推進	高齢者も含めた島民及び移住希望者に対し、職業に必要な技能及び知識を習得するための職業能力の開発等
4	生活環境の整備	住宅の確保(空き家の活用等)、空き家バンクへの登録、ど3R(廃棄物の発生抑制、再利用及び再生利用)の取組を推進
5	医療の確保等	医師・病床等の確保、救急医療体制の充実、地域の中核的な病院などによる支援や協力体制の構築、遠隔医療の導入推進等
6	介護サービス等の確保等	ニーズに応じた適切なサービス提供、知識や技術の習得の促進等を通じた島内人材や外国人介護人材の活用等による従事者の確保、介護ロボット等のテクノロジーの導入、介護施設の整備及びサービスの内容の充実等
7	高齢者の福祉その他の福祉の増進	住民負担の軽減について適切な配慮をしつつ、高齢者の自立促進、子どもの心身の健康に向けた環境整備
8	教育及び文化の振興	教職員の適切な人員算定及び配置、個性ある学習の場を提供や多様な文化的所産の保存及び活用等、調査研究等の実施
9	観光の開発	離島地域の特性と多様化するニーズに即した取組の推進、安全な観光に向けた医療体制や情報共有体制、防災対策の推進
10	国内外の地域との交流促進	滞在交流型の観光等の取組を通じ、交流・関係人口の増大、2拠点居住等の誘致、交流活動拠点整備等
11	自然環境の保全及び再生	陸域の保護区や海洋保護区の設定等自然環境に配慮した適切な利用の促進、外来生物の防除や伝染病の防疫等
12	再生可能エネルギーの利用その他のエネルギー対策	供給体制の整備、災害に強く環境負荷の小さい地域づくりを推進、石油製品の流通コストへの支援等
13	水害、風害、地震災害等に対して必要な国土保全施設等の整備	避難施設、備蓄倉庫及び通信設備の整備、国土保全施設等の整備等、防災上必要な教育及び訓練の実施等
14	防災上必要な教育及び訓練の実施	組織的な支援に向けた大学の活用、一時的な滞在施設の整備、都道府県及び市町村の積極的な関与

2) 北海道離島振興計画¹⁰⁾

北海道離島振興計画は、地域交通の確保に向け、住民の生活に欠かせない海上交通の運賃や海上輸送費の低廉化を図ることを目的として制定された(図 10)。

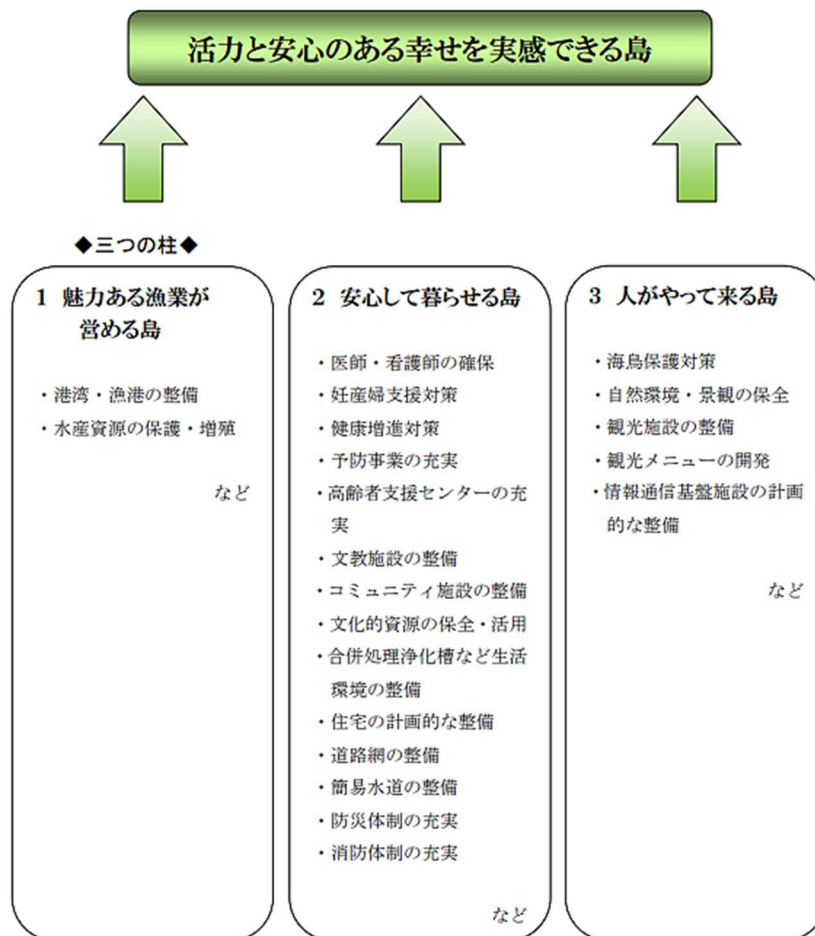


図 10 北海道離島振興計画の全体像

◆天売焼尻航路に関連する施策・現状認識

天売焼尻航路は、離島と羽幌本土をつなぐ定期航路として「地域住民や観光客の足として重要な役割を担っている」としている。島から本土への水産物の出荷や、本土から島への生活物資等の輸送に費用がかかり、生活費が高くなったり、事業者の収益性が下がったりする点が課題とされている。

◆施策の現状

交通体系の整備として、地域住民の安定と住民や観光客の利便性向上を図るとともにフェリー運賃の低廉化を図っている。島内交通については、「高齢者や観光客の足の確保のため、地域に適したデマンド交通などの取組の検討を進める」と記載されている。併せて、家庭用プロパンガスや揮発油などに係る海上輸送費低減のための支援に努めるほか、物資流通コストの低廉化を進めている。

観光では PR や体験型メニューの開発、地域産物を活かしたイベントを実施するなどリピーターの確保のほか新たな観光客の誘致等交流人口の拡大を図るほか通年観光の検討を行っている。

また、羽幌町では産業や情報などの各分野でリーダーシップを発揮できる人材の育成のため、「人づくり事業基金」を設立し、研修・講習会等による知識の向上、国際交流等により視野を広げる取組などを支援している。

3) 第2次羽幌町離島振興計画¹¹

離島航路の代金に関して公的機関による支援を行うほか、島内の地域交通に関するあり方についての検討が求められている。

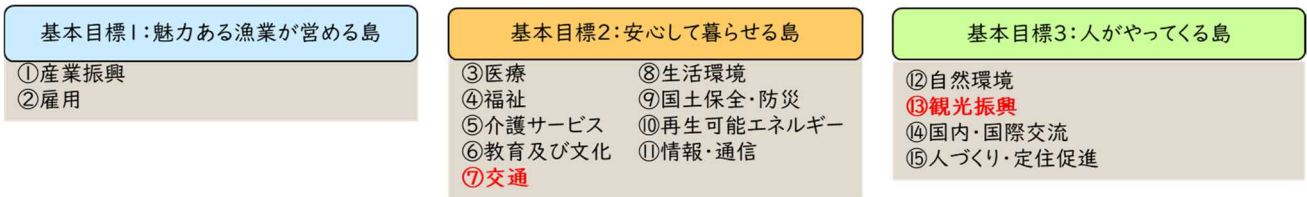


図 11 第2次羽幌町離島振興計画の全体像

◆天売焼尻航路に関連する施策・現状認識

運行事業者の安定的な運営のサポートを国・道・町で行い、港湾として海上交通の玄関や漁港としての機能の向上、貨物等の物流拠点として重要な役割を担っていくための計画的な維持管理を担っている。島内道路については、安全性・利便性向上に対応するため計画的な維持補修が必要であるとしている。また、島内の公共交通がないことから2次交通としてレンタサイクルや観光ハイヤーが機能しているが、高齢化による事業継続が不透明であることから、地域交通のあり方について検討されている。

◆施策の状況

離島航路の安定的、持続可能な航路確保のため、国・道・町で運行事業者に対する支援が継続されることが定められた。また、島民の航路運賃の負担軽減として、フェリー運賃の一部補助をこれまで通り継続しつつ、港湾施設の補修や浚渫など、適切な維持管理も計画的に進めていくこととなった。加えて、家庭用プロパンガスや揮発油等既存支援制度の拡充のほか、住民生活の安定に直結する水産物等の海上輸送費支援を国や道へ要請し、事業者の負担軽減を図っている。

4) 羽幌町エコアイランド構想¹²

羽幌町エコアイランド構想では、天売島・焼尻島の自然と共生を図っていくための住民側や地域側の指針のほか、観光客向けの環境を意識したコンテンツ造成が検討されている。

◆交通に関連する施策・現状認識

周辺に住宅がないフェリーターミナルでは、実証プロジェクト上で小型風力及び太陽光発電施設を設置し、高い発電量の推移が確認された。また、自然エネルギーを活用した観光が目指されており、エコツーリズムにも言及がある。電気自動車の導入にあたっては自然環境とのマッチング、地理的条件から特に観光用として導入すべきとの意見が多かった。

◆施策の状況

自然エネルギーについては、北海道が設置する公衆トイレやフットパス休憩所に風力や太陽光が利用されているのみで、島全体における利活用が検討されていない。このことから、平成24年度から25年度の2箇年にわたり電気自動車・再生可能エネルギーの導入に関しての実証プロジェクトが実施された。当プロジェクトは推進プロジェクトとして11事業と関連する3事業が設定された。

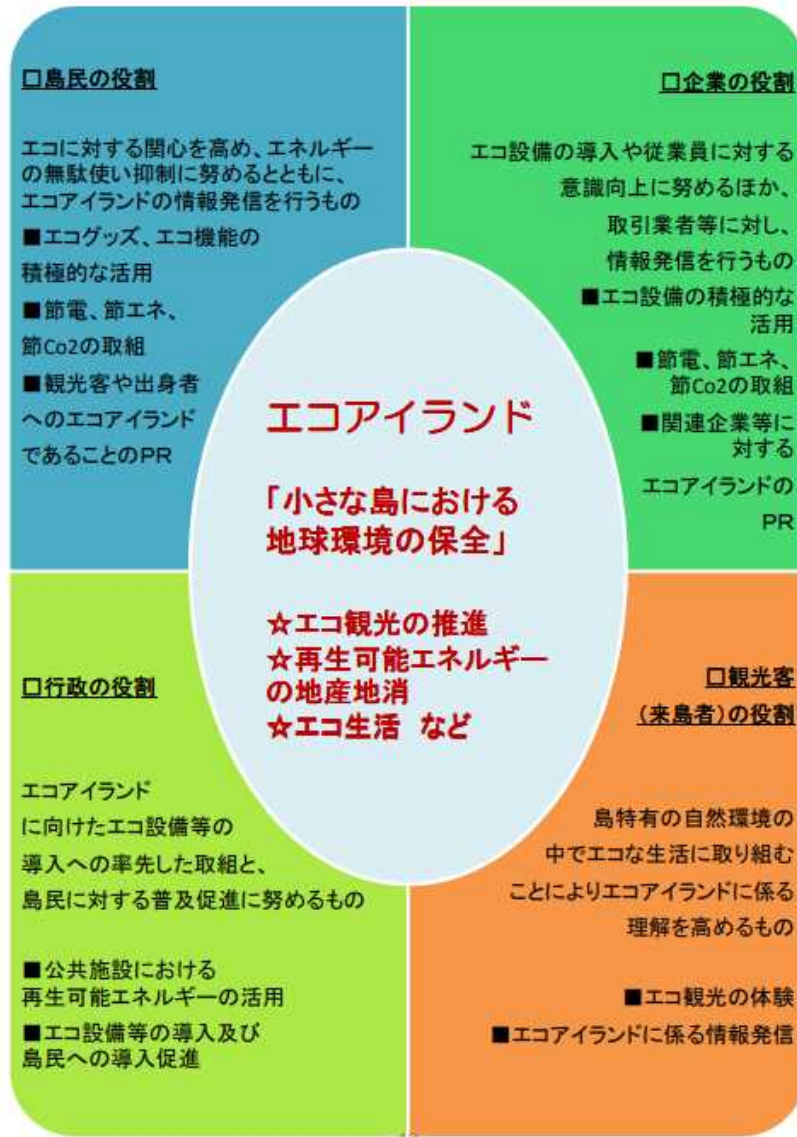


図 12 羽幌町エコアイランド構想の全体像

5) 第7次羽幌町総合振興計画¹³

第7次羽幌町総合振興計画は、離島振興における港湾機能を重要視しており、機能の維持管理といった保全に注力している(図13)。

1 産業の振興

本町の恵まれた自然環境や身近にある資源の再発見、有効活用に努めるとともに、働く人を大切に、農林水産業、高工観光業など、各産業の振興発展を目指していきます。

農業の振興、漁業の振興、林業の振興、畜産業の振興、高工業の振興、観光の振興、雇用の創出

2 健全な行財政運営

将来を見据えた計画的な財政運営により、限りある財源を将来に繋げていきます。また、町民サービスの向上や職員の育成に努めることで、安定的で信頼される行財政運営を図ります。

行財政運営の健全化、地域情報化の推進、広報広聴の充実

3 医療体制・介護・福祉施策の充実

子どもから高齢者まで、全ての世代が元気でいきいきと生活を送ることができる環境を目指し、各種福祉事業による支援や医療体制の充実化を図ります。

医療体制の充実、保健活動の充実、子育て支援・ひとり親家庭福祉の充実、高齢者福祉の充実、障がい者福祉の充実、社会保障の充実

4 教育・文化・交流の振興

将来を担う子供たちが夢と希望を持ち、誰もが充実した生活ができる環境づくりに取り組みます。また、学習やスポーツ、芸術文化の振興を図るとともに、国内外での交流機会の充実化を図ります。

学校教育の振興、幼児教育の振興、特別支援教育の振興、生涯学習の振興、地域交流の推進、芸術文化の振興、生涯スポーツの振興、国際交流の推進

5 防災の充実

近年頻発している大規模災害から町民の生命・身体・財産を守るため、防災に対する町民意識の向上や効率的、効果的に対応できる体制づくりに努め地域の防災力の強化を図ります。

防災体制の充実、消防体制の充実

6 自然環境保全・土地利用の推進

本町は雄大な自然環境に加え、天売島、焼尻島が持つ独自の環境から多くの恩恵を受けています。この自然に満ちた土地を後世に引き継ぐため、計画的な土地利用を図り、自然と共生するまちづくりを進めていきます。

自然環境の保護、土地利用の推進、自然エネルギーの推進

7 生活環境の充実

全ての人が安心安全かつ快適に暮らせる環境を目指し、町営住宅や交通体系、上下水道などの生活インフラの整備や防犯対策などに取り組みます。

住環境の充実、生活環境の充実、交通体系の充実、防犯対策の充実、上水道の適正維持、簡易水道の適正維持、下水道の適正維持

図13 まちづくりの基本目標

◆天売焼尻航路に関連する施策・現状認識

「社会経済的発展の方向の概要」において、山林・原野・離島を抱える羽幌町は「自然の魅力と活用支援は豊富であり、農林漁業の発展性と付加価値を高める地場産業の育成に大きな可能性」を持つとされるように、離島の自然環境は産業の面からも重要なものと位置付けられている。

離島振興に係る施策項目として「羽幌町離島振興計画」「離島の振興促進するための羽幌町「天売島・焼尻島」における産業の振興に関する計画」、「羽幌町エコアイランド構想」を位置づけている。また、旅客母屋の移転

による旧フェリー岸壁付近を中心として漁港区の狭隘化解消に向けた整備を進めている。加えて、定期航路の維持に向けて定期点検・地元漁業者及び漁協との意見交換を実施し、港湾施設の整備を目指している。

なお、天売島・焼尻島は観光資源として位置づけられているが、観光振興においては島に特化した施策の方向性はなく、町全体として取り組んでいくことがうかがえる。

◆施策の状況

地域住民の移動手段である公共交通に対する支援を継続し、維持・確保に努めるとしている。フェリーについては、港湾施設の維持管理に関する事項のみの記載にとどまり、利用促進に関する施策などは特になく、維持管理や事業者連携といった、航路機能の確保や維持に傾注している状況であると考えられる。本土内の観光拠点である道の駅「ほっと♡はぼろ」では施設の老朽化などによる地域の魅力低下が懸念されている。

6) 羽幌町過疎地域持続発展市町村計画¹⁴

羽幌町過疎地域持続発展市町村計画は、利便性が向上した羽幌港フェリーターミナル（FT）や島の自然などを活かした観光地として島を位置づけ、地域を磨き上げることが必要であるとしている（図 14）。

- 1 町内の道路の改良率、舗装率の向上と適正な維持管理
- 2 北国らしい景観を形成するための道路維持や冬季除雪対策のための機能強化
- 3 地域住民の安全確保のための国道232号の整備促進
- 4 道道天売島線、焼尻線をはじめとする一般道道の設備促進
- 5 住民が利用し地域産業の振興には欠かすことができない交通機関（地方バス、フェリー等）の円滑な輸送の確保
- 6 町内における交通空白地帯の対策の推進

図 14 羽幌町過疎地域持続発展市町村計画における交通対策の項目

◆天売焼尻航路に関連する施策・現状認識

地域資源を活かした地域づくりに向けて、天売島・焼尻島は海鳥や豊かな自然が共生する島として自然保護対策の積極的な推進を行っている（環境保全の取組が観光分野に位置づけられている）。羽幌港・焼尻港・天売港の3つの地方港湾は、「水産物の移出入・工事資材の輸送・観光客の交通アクセス基地等（中略）として重要な役割を担っている」とされている。なお、羽幌港フェリーターミナルの移設により利用者の利便性が向上していることにも言及されている。

◆施策の状況

観光への期待はされているものの、各種の活性化施策が定住の促進にはつながっていないと指摘されている。夏季で天候に左右されやすいことが観光の課題となっている一方で自然志向やインバウンドが追い風となっている側面もある。交通機関は「住民が利用し地域産業の振興には欠かすことができないもの」として位置づけられており、観光資源の活用については、天売・焼尻島が中心であると述べられている。天売島は「海鳥と人が共生する島」、焼尻島は「イチイ（オンコ）の原生林やめずらしい野鳥が飛来する島」として、生態調査や保護 PR 活動等による自然保護対策が目指されている。

7) 羽幌町都市計画マスタープラン¹⁵

羽幌町都市計画マスタープランでは、羽幌港 FT・漁協の移転に併せて羽幌港周辺が観光拠点として整備されており、市街地からのアクセス整備が目指されている。



図 15 羽幌町の土地利用計画と、交通体系の方針図¹⁶

◆天売焼尻航路に関連する施策・現状認識

羽幌港周辺の「海岸ゾーン」を「交流と産業の拠点」と位置づけ、羽幌港 FT と漁協の移転を契機として「交流と賑わいが生まれる魅力ある地域づくり」を目指している。国道 232 号線と天売焼尻航路を「広域交流軸」と位置付け、結節のために「南 2 条通」の整備が必要とされている(図 15)。また、公共交通については、町内外のバス路線・コミュニティバス・離島航路の維持が求められている。

公共交通の維持はまちづくりの課題として認識されており、運営補助を中心とした対策が取られている。

◆施策の状況

羽幌港 FT に設置された「浜の母ちゃん食堂」や、北るもい漁協の売店「きたる」など、海の資源を活用した観

光拠点化が進められている。南2条通にはフェリーターミナルへの案内看板等が設置されているが、国道232号線から案内看板に従って動くと遠回りすることになる（移転前のルートが残っている）ため、車での利用者にとってわかりづらい状況となっている。なお、「ウォーキングルート」には歩道が整備されており、歩きやすい環境といえる。公共交通維持については、コミュニティバスの町による運行と、路線バスに対する拠出が盛り込まれている。

産業・観光振興に関するもの

8) 第5期北海道観光のくにづくり行動計画¹⁷⁾

With/After コロナ期に対応して自然公園などの活用が目指されている(図16)が、ヒアリングでは島の自然資源活用に関する不満も聞かれた。

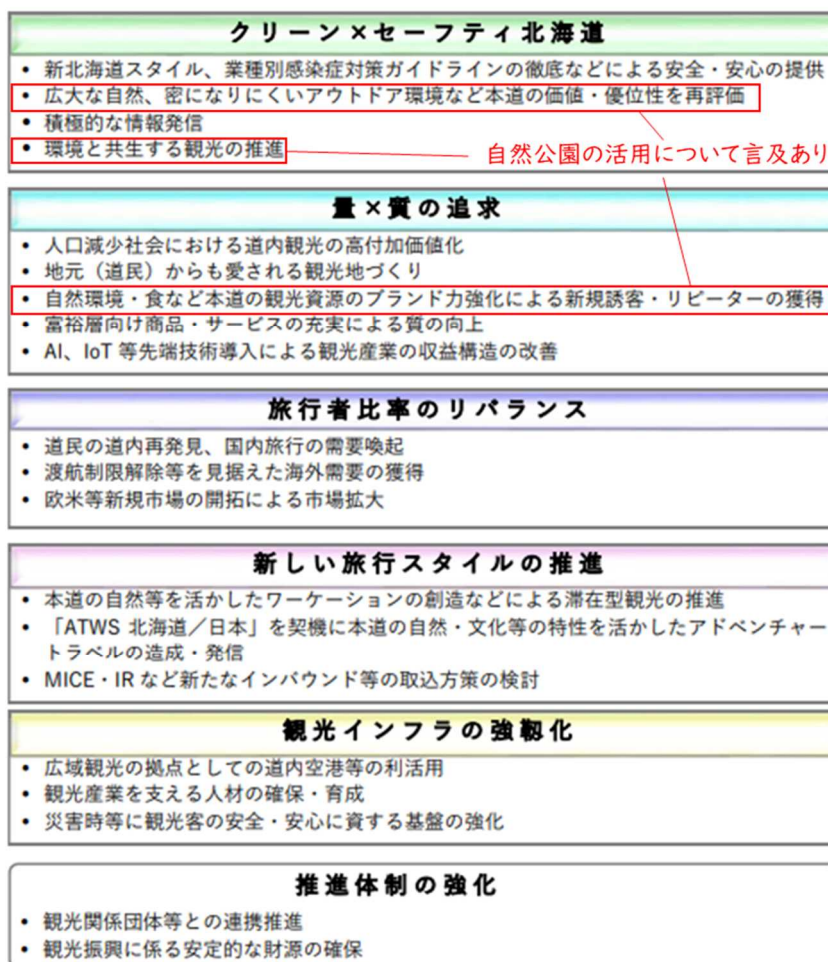


図16 特に注力していく施策展開の方向性¹⁸⁾

◆天売焼尻航路に関連する施策・現状認識

「北海道観光が将来的にめざす姿」においては、「繁閑差・地域偏在（道央集中）の解消」、「道内観光地間を快適に移動できる二次交通」、「道民の貴重な財産である自然環境や文化を守り育てながら次の世代につなぐ」、「四季を彩る雄大な自然との共生」など、天売島・焼尻島の振興に関連するキーワードが複数記載されている。また、「クリーン×セーフティ北海道」（with/after コロナに対応した誘客）と「アドベンチャートラベル」をテーマに戦略的な情報発信が求められ、「自然公園の利活用」も複数の項目に記載された。

◆施策の状況

アドベンチャーツーリズムはATWSを契機に道内で機運が高まっているが、天売島・焼尻島では受入環境の整備が遅れていることなどもあり、注目されにくい状況である（釧路、ニセコ等が先行）。自然公園の利活用については、環境省の「国立公園満喫プロジェクト」が先行しており、国定公園（天売・焼尻）の利活用までは進んでいない現状である（※ヒアリング結果による）。

交通に関するもの

9) 北海道交通政策総合指針重点戦略¹⁹

北海道交通政策総合指針重点戦略では、インバウンドを想定した観光活用が中心に盛り込まれているが、離島航路に特化した内容はない(図 17)。



図 17 北海道交通政策総合指針の全体像¹⁹

◆施策の状況

本戦略には、6つの重点戦略が盛り込まれている。6つの重点戦略のうち「インバウンド加速化戦略」では、キャッシュレスやデジタル化を含む観光客の利便性確保が目指されている。また、「シームレス交通戦略」では、②複数の交通手段・事業者の連携が推進されている。

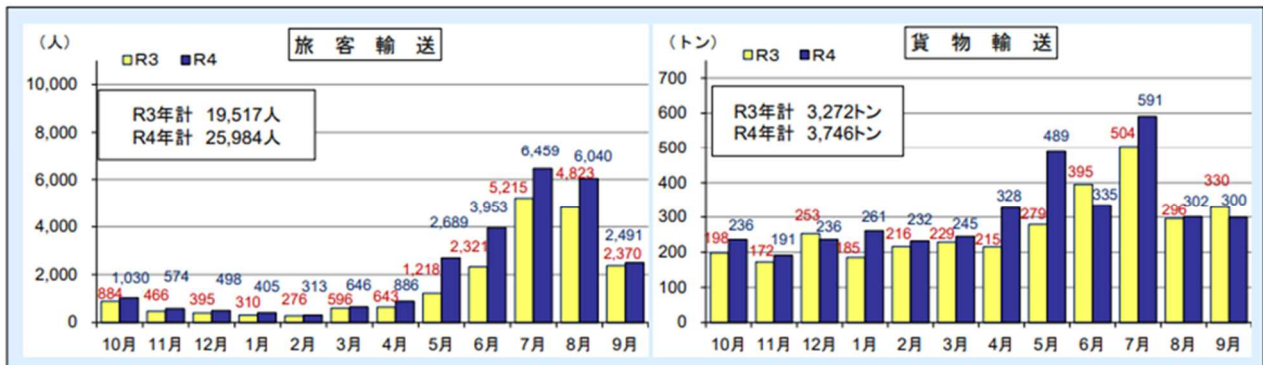
広域交通のネットワークは、旭川・稚内が道北の「中核都市・地域中心都市」とされ、留萌管内は「生活圏」に位置付けられている。生活圏の利用促進については、「[地域公共交通計画](#)」の市町村カバー率が令和5年度に100%になることを目指している。留萌管内公共交通計画により、[羽幌町もカバー](#)されている状況である。

更に「ウイズコロナ戦略」として「[コロナ禍で失われた交通需要の回復](#)」、「[新たな日常を支えるデジタル化の積極的な活用](#)」、「[持続可能なサービスモデルへの転換](#)」などが目的として定められている。2020年度策定のためwithコロナ色が濃くなっているが、持続的な運営などは、旅客需要が減少傾向にある中で今後より重要な課題となると考えられる。

10) 離島航路確保維持計画(羽幌航路)²⁰

離島航路確保維持計画は、観光によるフェリーの利用促進が不可欠としている。

3) 利用実績



4) 収入実績

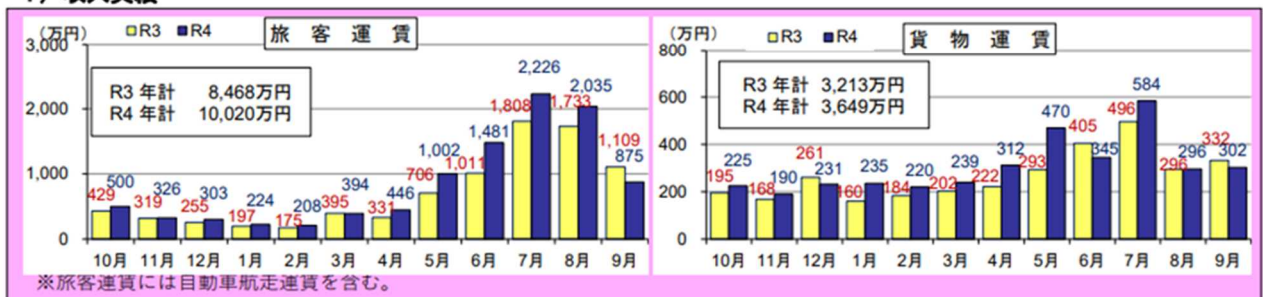


図 18 令和3年度・4年度の天売焼尻航路輸送実績²⁰

◆天売焼尻航路に関連する施策・現状認識

島の人口減少・高齢化が進む一方で、他航路の代替手段がないことから、羽幌航路は“なくすことができない重要な交通手段”として位置付けられている。また、[乗船客の8割が島外客](#)であることから、各種観光施策と連動した利用促進を目指している状況である。令和4年度は、令和3年度と比べて旅客・貨物とも増加したが、旅客数は目標に届かず、[燃料費の高騰などの影響を受けて費用も増加し、赤字額が拡大](#)している。

◆施策の状況

利用促進策として、羽幌沿海フェリーが独自に実施するものは「宿泊研修割引」、「夏休み親子割引」、「レンタカー割引」である。このほか、連携先(町・観光協会・観光事業者等)が実施する関連施策として、「観光イベント」「管内バス乗り放題周遊券(萌えっ子フリーきっぷ)」、「体験型ツアー」が行われているが、このうち「観光イベント」は「焼尻めん羊祭り」を除いて令和5年度は実施されなかった。

11) 北海道留萌管内地域公共交通計画²¹

本計画は、留萌管内の「地域にふさわしい最適かつ持続可能な公共交通ネットワークを構築」することを目的に策定された。

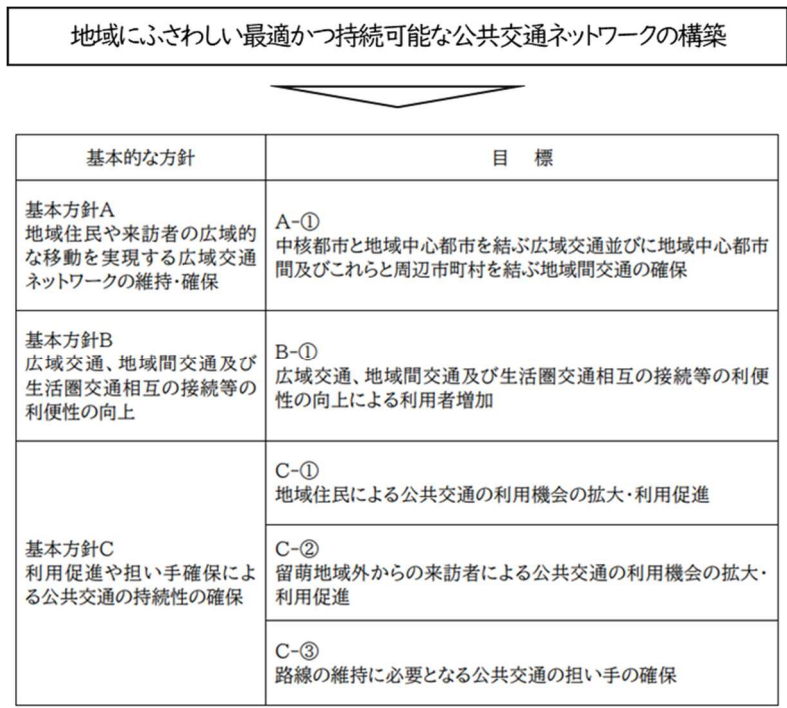


図 19 北海道留萌管内地域公共交通計画における基本的な方針と目標²¹

◆天売焼尻航路に関連する施策・現状認識

コロナ禍の 2020年度は、羽幌沿海フェリーの利用者数が前年度から半減したことが課題として挙げられている。管内全体の課題として、長大な移動距離・通勤通学圏、高い高齢化率、観光客のほとんどが自動車利用であること、冬は風雪の影響を強く受けることなどが指摘されている。

◆施策の状況

JR留萌線の廃止による代替手段の確立も盛り込まれている。また、「留萌地域外からの来訪者による公共交通の利用機会の拡大・利用促進」も記載されている。

② 本事業で分析する公共交通体系

本事業で分析する公共交通体系を「羽幌沿海フェリーと沿岸バスの主要路線」と定めた(図 20)。

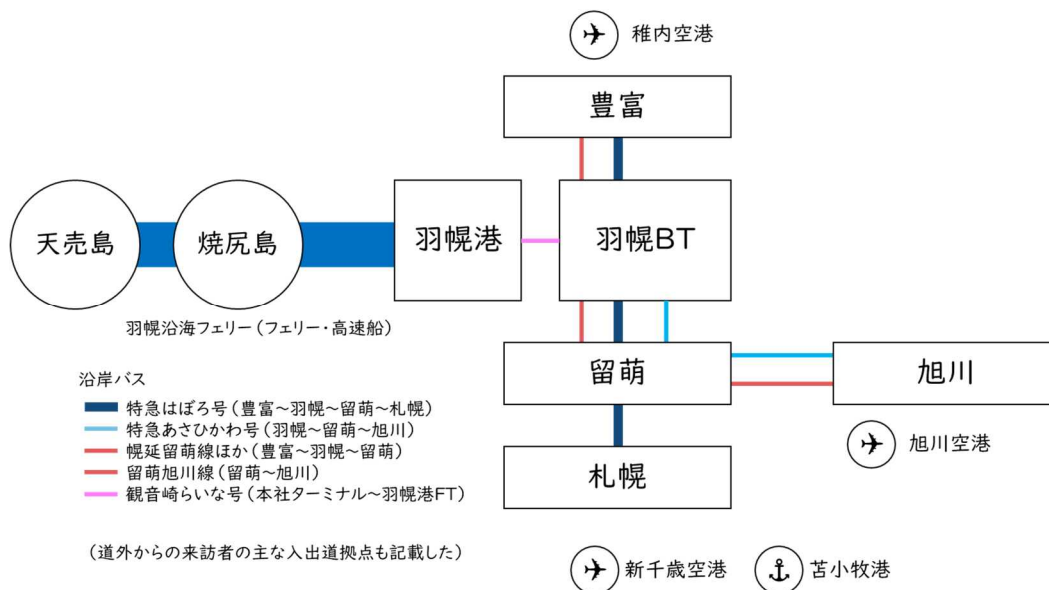


図 20 本調査で分析する公共交通体系

③ 貨物輸送の状況

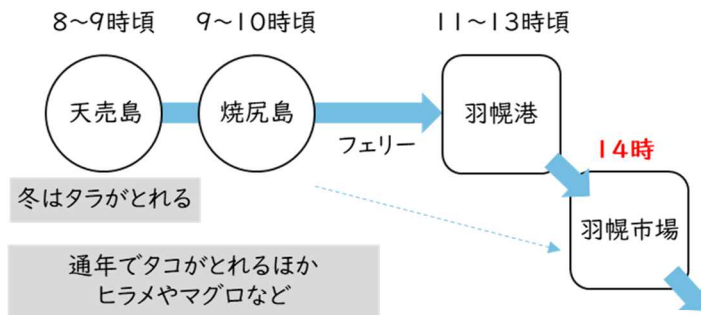
フェリーを活用した島からの水産物輸送の流れを、関係者へのヒアリングをもとに、図 21 のとおり整理した。羽幌市場のセリは、船の時間に合わせて昔から 14 時に設定されている。主な出荷先は道内で、道外に出ることはあまりない。

フェリーのドック期間等は漁船で直接羽幌港へ運ぶこともあるが、フェリーに比べて効率が悪いので基本的にはフェリーの出航に合わせて漁をする(フェリーがしばらく出ないなら、漁を休むことが多い)。

北るもい漁協へのヒアリングによると、羽幌市場に早く着く分には問題ない。一方で、冬は天売島でタラが漁期を迎える上に欠航率が高く、豊漁の日や数日ぶりに運行する日などは荷役業務に時間がかかることもある。島内事業者のヒアリングでは、冬にフェリーとバスを乗り継いで札幌に行く際に、羽幌を 12 時台に出る特急はぼろ号に間に合わず待ち時間が長くなるという課題が聞かれたが、運行時間の変更は容易ではないと考えられる。

なお、夏にとれるウニやナマコなど一部の水産物は、羽幌市場でのセリを介さずに業者が直接羽幌港まで取りに来るため、午後の便で出荷することが多い。

一般の水産物【通年】



一部の水産物【夏】

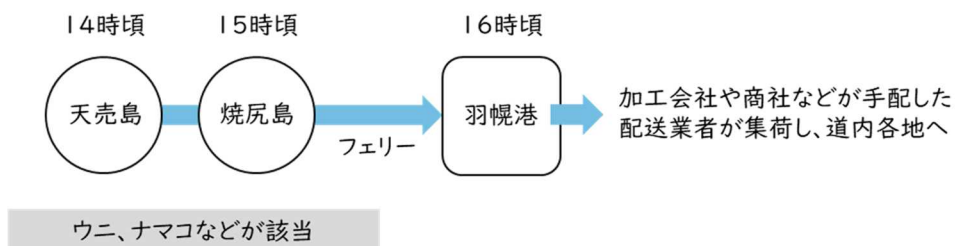


図 21 島で水揚げされた水産物の輸送の流れ

(2) 路線バス・高速バスの利用実績

バスの利用者数は、路線バス・高速バスともに長期的に減少傾向が続いている(図 22・表 3)。要因として、沿線地域の人口減少が考えられる。

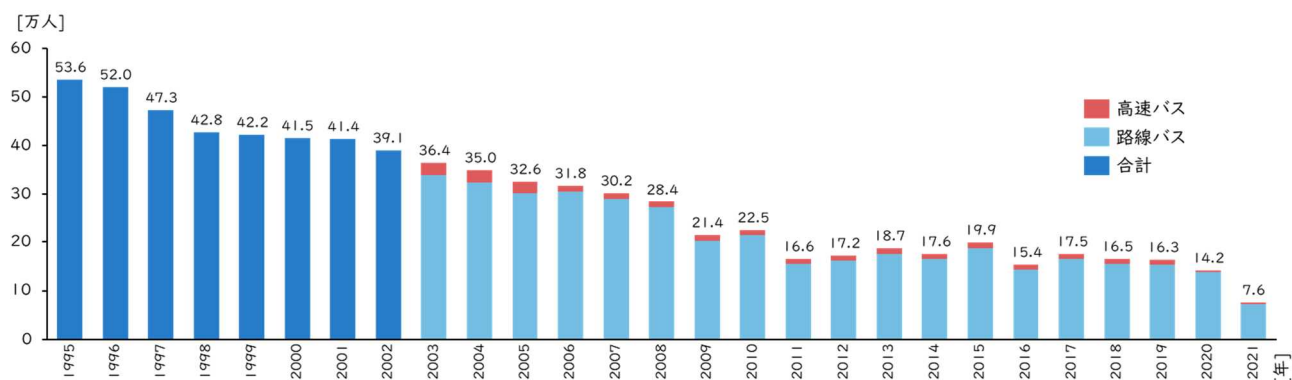


図 22 沿岸バスの利用実績(1995年~2021年)⁶

表 3 沿岸バスの利用実績(高速バス・路線バス別/2003~2021年)⁶

[単位:人]	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
高速バス	24,318	24,643	23,627	12,262	11,945	11,549	11,013	11,003	11,040	10,867
路線バス	339,662	324,862	302,155	305,760	290,319	272,115	203,281	213,935	154,911	161,303

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
高速バス	11,073	10,952	11,091	11,163	10,568	10,284	9,733	3,413	3,882
路線バス	175,902	164,801	187,744	143,104	164,752	154,445	153,435	138,785	71,957

(3) 利用者・関係者の現状・課題

① ヒアリング結果概要

航路の利活用に関する現状・課題を把握するため、町内の関係者にヒアリングを実施した。

◆目的

- ・ 離島航路を利用する人々や、離島の暮らし・産業に関わる方の現状・課題を把握する
- ・ 離島航路や公共交通に関する課題・要望を把握する
- ・ 新たな施策案の実現可能性を検討する

◆実施概要

時期:2023年8月~9月

実施方法:対面(一部オンライン)

対象:羽幌町内の観光・商工・行政・運輸関係者(具体的なヒアリング先は表4のとおり)

◆ヒアリング事項

- ・ ヒアリング先の概要(事業内容や仕事の内容など)、課題
- ・ 離島航路への要望・意見
- ・ 周囲の関係者に対する意見
- ・ 今後取り組んでみたいこと

※ 時間やヒアリング先の状況に応じて、上記を基本として適宜項目は入れ替えている。

表4 ヒアリング先の一覧

エリア	カテゴリー	事業者名(◎印はWGメンバー)	日時
羽幌	行政	◎羽幌町商工観光課、町民課	2023年8月9日(水)15時~
	観光	◎羽幌町観光協会	2023年8月16日(水)14時~
	運輸	◎沿岸バス	2023年8月9日(水)13時~
	運輸	◎羽幌沿海フェリー	2023年9月13日(水)14時~
	観光	サンセットプラザ(道の駅 ほととほはぼろ)	2023年9月13日(水)17時~
	観光・環境	海鳥センター/環境省羽幌自然保護官事務所	2023年9月14日(木)11時~
	商工	北るもい漁協 羽幌支所	2023年9月13日(水)13時~
	商工	梅月	2023年9月14日(木)14時~
	商工	ダイマル乳品	2023年9月13日(水)15時30分~
	焼尻島	行政	羽幌町焼尻支所
運輸		焼尻港フェリーターミナル	2023年9月10日(日)16時~
観光		布目旅館	2023年9月10日(日)20時~
観光・商工		焼尻ゲストハウスやすんでけ	2023年9月11日(月)20時~
観光		Café & Atelier おくむら	2023年9月10日(日)15時~
観光・運輸		焼尻観光ハイヤー (簡易)	
商工		北るもい漁協 焼尻支所	2023年9月11日(月)14時~
天売島	行政	羽幌町 天売支所	2023年9月12日(火)16時~
	運輸	天売港フェリーターミナル	2023年9月12日(火)13時~
	運輸	オロロンレンタサイクル (簡易)	
	観光・運輸	ゲストハウス天守礼	2023年9月12日(火)20時~
	観光	ネイチャーライブ	2023年9月1日(金)13時~
	観光	(一社)おらが島活性化会議	2023年9月12日(火)11時~
	観光	BePort (簡易)	
	商工	三浦商店 (簡易)	

ヒアリングで聞かれた意見を整理すると、表 5 の通り。

表 5 ヒアリング結果の概要

	現状	観光事業者・観光客への意見	運輸事業者への意見	行政・観光協会への意見
観光事業者・島民	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受入体制が弱体化し、団体旅行の受入ができなくなった。旅行会社の来島が減っている ・ 観光客数は長期的に減少傾向。現在もコロナ前の水準に回復していない ・ 以前よりも「観光シーズン」が短くなっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天売島は海鳥、焼尻島はめん羊牧場を目的とする方が多い ・ 他地域の事例を知る機会が不足、新しいことに取り組む余裕もない ・ 外から担い手を確保しなければ継続できないが、通年での仕事を創出することが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受入体制が弱体化し、団体旅行の受入ができなくなった。旅行会社の来島が減っている特に道外客はバス利用が多いので、接続が悪いのは不便 ・ 冬季のバスとフェリーの接続が悪い(はぼろ号減便の影響も) ・ 港のサービス水準や、玄関口としてのあり方に課題 ・ 最近(知床の遊覧船事故以降?) 欠航や調査中が増えた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 離島に対する理解・支援が不足していると感じる。島のことを知らない職員が多いのではないかと ・ 観光協会では島の情報発信に取り組んでいるが、島側の思いとのズレや発信力不足も感じる ・ めん羊牧場に関しては、町の対応や議論の透明性に疑問も
運輸事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者数は減少傾向にある ・ バス・フェリーとも行政の補助を受けながら運営している ・ バスとフェリーを乗り継ぐ利用者は限定的 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島側のフェリー職員が人手不足 ・ 宿泊施設の減少が課題と認識している ・ 島の観光案内所機能が弱体化しており(営業日数等)、フェリー職員の負担になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島側では人員が限られ、対応しきれない状況もある。やり方を変える必要がある/新しいことに取り組む余裕がない ・ 島側と本土側のコミュニケーションが不足 ・ フェリーは貨物輸送もあるためダイヤ変更等は難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ フェリーの運航には補助を受けている
行政・観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役場は人手・資金とも不足している ・ 一部離島のため、本土住民の理解を得ながら離島を支援することが難しい状況もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受入環境が悪化していることは課題と認識。たくさんの方が訪れても対応できないと懸念 	<ul style="list-style-type: none"> ・ フェリーに対して補助は行っているが、民間事業者のため口を出せない部分もある ・ 確保維持協議会の議論は経営計画までで、利用促進までは取り組んでいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本土側の職員が島のことを理解する機会が不足しているのではないかと ・ 特定国境有人離島に指定されておらず、現状の町の予算ではできずに限りがある

② 乗船客アンケート結果概要

繁忙期のフェリー利用者の状況やニーズを把握するため、お盆期間を含む夏季のフェリー利用者に対してアンケート調査を実施した。

◆調査概要

調査方法	Web+紙併用、自記式(紙は留置式)
調査対象	羽幌沿海フェリー利用者
回収数	352名(完全回答の336名を集計: Web回答321名+紙回答15名)
調査時期	2023年8月5日~8月31日 ※8月10日~16日は、調査員がQRコード付き用紙を乗船客に配布した。
設問数	全31問(回答による条件分岐あり)



図 23 アンケートを告知するポスター

Web 回答用のリンクを二次元コードにしたカードを作成し、羽幌沿海フェリー株式会社の協力で乗船客に配布した。併せてアンケートを印刷したものを各港フェリーターミナルに設置した(羽幌港 2 カ所、天売港・焼尻港各 1 カ所、計 4 カ所)(図 24)。アンケートの回答促進のため、各港ターミナル内・船内にポスターを掲出したほか、羽幌沿海フェリー株式会社と羽幌町にノベルティを提供いただき、事務局で用意した特産品詰め合わせと併せて、回答者を対象としたプレゼントの抽選を実施した(図 23)。

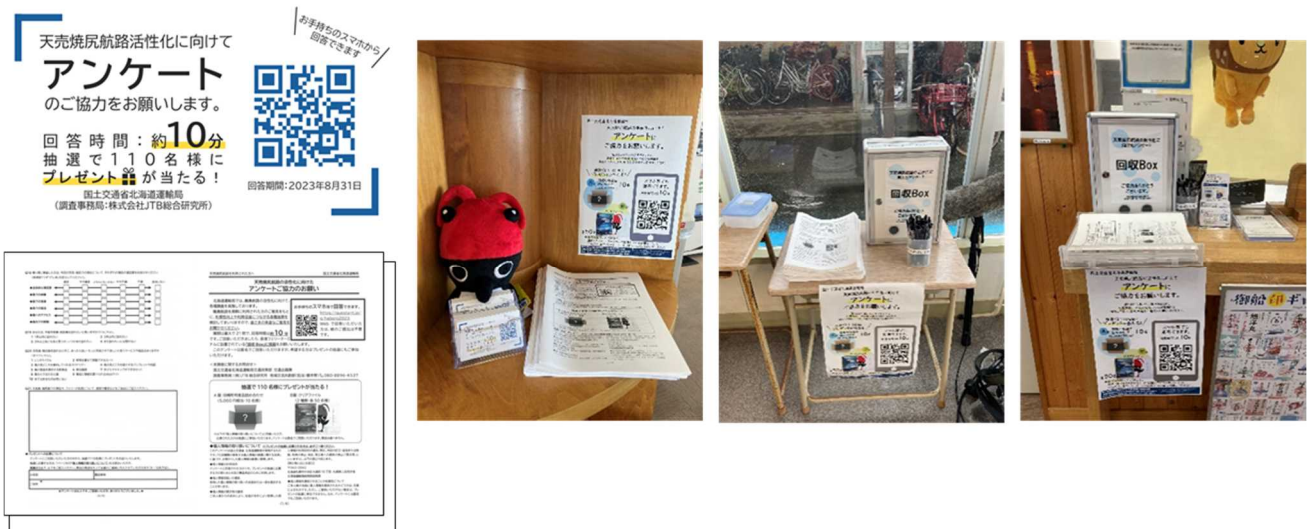


図 24 アンケート用紙と案内用のカード

結果概要

◆回答者の属性

- ✓ 乗船日は「焼尻めん羊祭り」開催日の8月5日が最も多く、お盆期間が続いた。
- ✓ 回答者のおよそ半数が「道内からの観光客」で、「帰省等」「道外からの観光客」を合わせると回答者の9割にのぼる。
- ✓ また、道内客の居住地は札幌市がおよそ半数を占め、旭川市が続く。道外客は関東が最多となっている。
- ✓ 道外客の出入道は新千歳空港が過半数で、「新千歳以外の空港」よりも「フェリー港(計)」の方が多い。
- ✓ 同行者は「家族」が最も多いが、一人での利用も2割強と目立った。

◆公共交通の利用

- ✓ 道内客の9割以上がマイカー・レンタカーで羽幌港に訪れており、公共交通による来訪は少ない。
- ✓ バス利用者のおよそ3/4が特急はぼろ号を利用している。
- ✓ バスを使わない理由は「車以外の選択肢を考えたことがない」が最も多い。
- ✓ 「あればバスを利用してみたいと思うこと」を尋ねたところ、「何があってもバスを使うことはないと思う」割合は15.8%と低く、セット乗車船券などへの関心が高くなった。

◆島の観光について

- ✓ 来訪目的は「自然の風景を見ること」、「島めぐりをする事」がいずれも6割前後となった。
- ✓ 来訪客の過半数が日帰りで、焼尻島は特に日帰りの割合が高い。2島を巡る割合は低く、片方のみの訪問が多い。
- ✓ 島での消費額は飲食費が最も多く、日帰りが多いことやキャンプ客がいることなどから宿泊費は低くなった。
- ✓ 島の満足度は全体的に高いが「島へのアクセス」「島での移動」は他の項目と比べてやや不満が多くなった。
- ✓ 来訪者の過半数がはじめての来訪で、再訪意向は高いが「3年以上先」が多く、アクセスの悪さなどから頻繁な再訪が難しいと考える方が多い傾向がうかがえる。
- ✓ 島に求めるものは、「島ならではのお土産」が最も多く、「島の産品を食べられる飲食店」「レンタサイクル」と続いた。

◆自由記述より

- ✓ 自然や食に関する評価が目立ち、「親切にしてもらった」などの記述も散見された。交通に関するマイナスの意見としては、バスとフェリーとの接続や、フェリーがキャッシュレスに対応していないこと、運賃の高さなどが目立った。
- ✓ 焼尻めん羊祭り参加者からは、焼尻島のめん羊牧場廃止を残念に思う意見が多く、廃止の報道にふれて訪れる方も目立った(※調査終了後に、めん羊牧場は民間事業者に譲渡され存続することが決定した)。

③ フェリーターミナル実地調査

繁忙期に羽幌港フェリーターミナルを訪れる方の属性や傾向を把握するため、駐車場で調査を行った。

◆実施の目的

フェリーターミナル利用者の属性（地域、車種から推定されることなど）を把握し、繁忙期の天売島・焼尻島観光の特性を分析する。「公共交通を利用しない層」の状況を観察し、公共交通を活用したフェリーの利用促進に向けた示唆を得る。

◆実施概要

時期：2023年8月10日（木）～16日（水）7日間

時間帯：7時（もしくは始発便の1時間

前）から17時

実施方法：羽幌港フェリーターミナル駐車場に調査員を配置しカウント（調査箇所は図25のとおり）。

調査事項：

- ① 時間帯ごとの入場する車両の台数
- ② フェリーで航送される車両の台数
 - ・ 車両のナンバープレート（地域）
 - ・ 車種（普通乗用車、レンタカー、二輪、その他）
 - ・ レンタカーかどうか

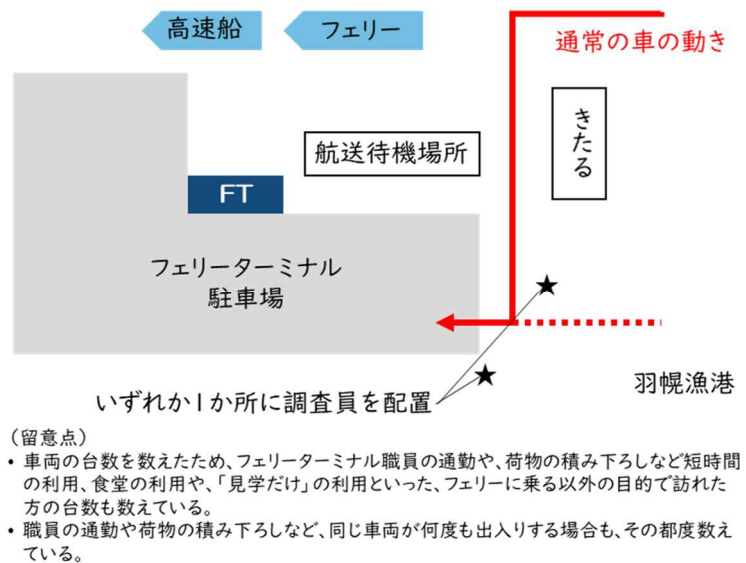


図 25 実地調査の実施状況

結果概要

◆来訪者層

旭川ナンバーが最多で、札幌ナンバーが続く。大半が道内客で、道外客はレンタカーも含めて少なかった。業務用（荷物の積み下ろし、通勤など）とみられる車も多く、旭川ナンバーが特に多い要因となっている。本州の車両は、自家用車に加えて二輪が多かった。

◆観光客の行動(観察結果)

オロロンラインをツーリングやドライブするついでに訪れる方が多く、フェリーターミナルに立ち寄ってすぐに出ていく方も少なくない。特に、フェリーの時間を調べずに訪れて、都合の合う便（待ち時間や現地の滞在時間など）がなく帰る方も散見された。12～13時がもっとも入場が多く、羽幌港フェリーターミナルで営業している「浜のかあちゃん食堂」を**目当てにする方**も多い。

キャンピングカーも一定数あり、24時間トイレがあって無料で駐車できることなどから、車中泊スポットとしても利用されている（入ってくる車のみを数えていたため集計していないが、早朝時間帯は出ていく車も目立つ）。

沿岸バス本社ターミナルからのシャトルバス利用者は、1便あたり数名程度であった。観光客の中には歩いて港まで来る方もいた。

第3章 公共交通体系における羽幌航路の状況

(1) 公共交通体系としての課題

① 各調査結果のまとめ

第1章・2章に示した各種調査について、下記の通り主な結果を整理した。

◆既存計画のレビュー

- ✓ 観光による島の振興や公共交通の維持に関する記載は、町の総合計画や離島振興計画の中に盛り込まれており、運営補助を中心とした対策が取られている。
- ✓ 離島の自然環境は産業・観光の重要な資源として位置付けられている。
- ✓ 離島航路確保維持計画では、フェリー運賃の各種割引に加えて、町や観光協会等の施策を通じた利用促進が目指されている。

◆公共交通体系各路線の利用実績

- ✓ 島の人口減少や離島ブーム以降の観光需要減などにもない、天売焼尻航路の利用者数は長期的に減少傾向が続いている。
- ✓ コロナ禍で乗船人員は激減し、2023年度においてもコロナ前まで需要が回復していない(事業者の実感として)。バスの利用者数も沿線の人口減少に合わせて減少傾向にある。

◆乗船客アンケート

- ✓ アンケート回答者の過半数が道内の観光客で、道外・帰省等を合わせると 9割が広義の観光客による回答となった。
- ✓ バスで羽幌港を訪れる割合は少なく、「車以外の選択肢を考えたことがない」方が 2/3 近くにのぼる一方、バスを利用したくなるアイデアを提示したところ「何があってもバスを利用することはないと思う」割合は 15.8%となった。
- ✓ 島での滞在は日帰りが過半数で、特に焼尻島は日帰りの割合が高い。島での消費額は宿泊費より飲食費が多かった。
- ✓ 島の観光に求めるものは、「島ならではのお土産」「島の産品を提供する飲食店」「レンタサイクル」が多数であった。

◆実地調査

- ✓ 入場者の過半数が旭川ナンバーの車両で、レンタカーや道外ナンバーの割合は低く、地元客が目立った。
- ✓ 羽幌港フェリーターミナルに着いてすぐに帰ってしまう方が多く、「浜のかあちゃん食堂」目的とみられる入場者と合わせると、一定の割合で「港に来てフェリーに乗らない層」が存在している。

◆ヒアリング調査

- ✓ 島の人口減少・高齢化に危機感を持つ方が多い。
- ✓ 観光事業者の多くが後継者不足で、既に廃業した施設も多い。
- ✓ 生活の不便さなどから、冬は本土で暮らす方も少なくない。冬の需要が激減する観光だけでは通年の仕事にならないとされる。
- ✓ 住民としても、観光事業者としても、島内関係者はバスとフェリーの接続に課題を感じる方が多かった。
- ✓ フェリーの時間は物流による制約を受けるとのことだが、冬ダイヤは多少早めることで特急はぼろ号との接続を改善できる可能性があると考えられる。
- ✓ 人手不足から新しいことに取り組む余裕がないという意見が多く、一部の方から「他地域の事例を知らない」との意見も出ていた。
- ✓ 町の離島に対する支援や、本土側住民の島に対する理解が不足していると感じる方が複数いる。

② 課題の全体像

各種調査の結果をもとに、課題の全体像を図 26 のとおり整理した。離島航路関係者（ステークホルダー）においては、互いに対する意見・要望がヒアリングで聞かれ、関係者間でコミュニケーションを取る機会や、利害の調整を行う仕組みが不足していることがうかがえる。

また、急速に人口減少と高齢化が進む島においては、慢性的に地域の担い手が不足しており、新しいことに取り組む余裕がない状況がうかがえる。島では大学生の合宿等を受け入れているほか、町内外の海鳥保護に取り組む企業等の加盟する団体もあるが、すべての課題には対処しきれていないことへの危機感あるいは諦めムードが感じられる。

島の豊かな自然や質の高い食材などは地域関係者の中でも魅力として認識されているが、活用しきれていない状況である。

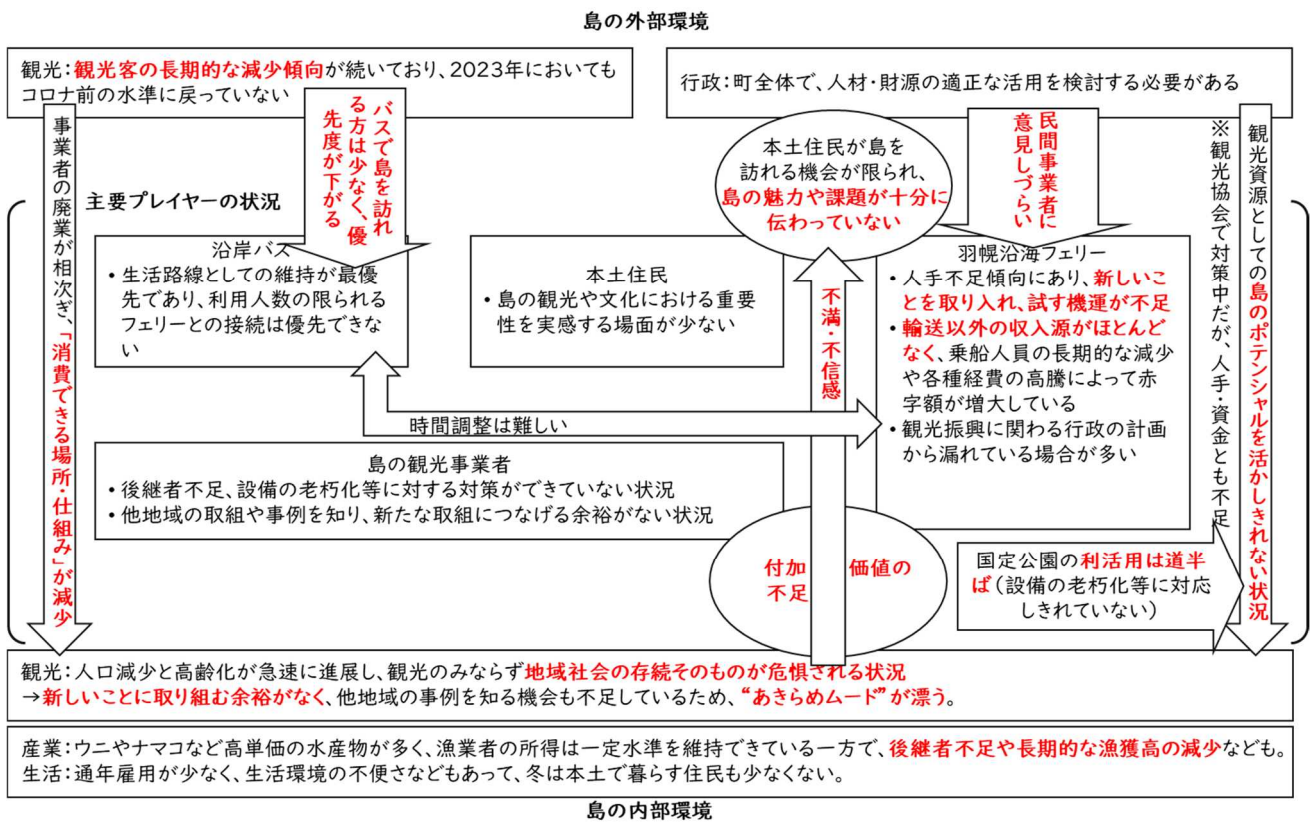


図 26 天売焼尻航路を取り巻く課題の全体像

(2) 解決の方向性

調査・分析によって整理された課題と、ワーキンググループによる議論を経て、以下の4つの方向性が示された。

- ① 離島航路の維持・活性化に向けた力を集約するための体制づくり
- ② 自然豊かな島の魅力を発信し、保全に係る努力に共感を集める
- ③ 島のベースキャンプとして羽幌港フェリーターミナルを位置づけ、船に乗らない方にも魅力を伝える
- ④ 情報の整理・見せ方の改善によって、はじめての方にもフェリーを親しみやすくする

① 離島航路の維持・活性化に向けた力を集約するための体制をつくる

◆現状と課題

- ・ 島の人口減少・観光客の減少が進んでおり、航路維持のアイデアや、新たな担い手が求められている。
- ・ 高齢化が進み、島内事業者の継承が課題となっている。

◆目指す方向性

- ・ 離島航路に関する様々な関係者が協力しあうことで、今回の施策の実現を含む島の活性化に取り組む体制を強化する。
- ・ 島外の離島ファンの巻き込みも検討する。

② 自然豊かな島の魅力を発信し、保全に係る努力に共感を集める

◆現状と課題

- ・ 海鳥の島として保全活動が行われており、鳥好きや島好きが訪れるきっかけになっている。
- ・ 生態系の保全についても、島の人口減少により継続に向けた支えがあると良い。

◆目指す方向性

- ・ 島の自然の楽しみ方を発信し、島旅に慣れていない方を誘客するとともに、満足度を高める
- ・ 島の自然の希少性を発信し、保全活動に目を向けてもらうきっかけを作る

③ 島のベースキャンプとしてフェリーターミナルを位置づけ、船に乗らない方にも魅力を伝える

◆現状と課題

- ・ フェリーに乗らない方も、羽幌港を多く訪れており、お土産や観光案内のニーズがある
- ・ 島の魅力である自然資源は、馴染みのない方にとって楽しみ方がわかりづらく、島に渡る前に知る機会が少ない

◆目指す方向性

- ・ 羽幌港フェリーターミナルで島に関する情報を伝えたり、必要な備品等を貸し出したりすることで、島に渡った際の満足度を高めるとともに、お土産購入などの消費を促す。

④ 情報の整理・見せ方の改善によって、はじめての方にもフェリーを親しみやすくする

◆現状と課題

- ・ フェリーターミナルや船内の情報がわかりづらい。
- ・ フェリーに馴染みがない方にとって、情報のわかりづらさが島に行く障壁となっている可能性がある。

◆目指す方向性

- ・ 来訪前に、島へのアクセスやフェリーの利用方法を発信することで、島に行く心理的なハードルを下げるとともに、窓口での対応を減らす。

(3) 各施策の内容

具体的な施策の検討にあたっては、ワーキンググループメンバーにおいて、30 あまりのアイデアから実現可能性や効果の観点から絞り込み・具体化を行った。これらの施策は、比較的成本がかからず、実現可能性が高いものと、さらなる検討を重ねながら中長期的に実現を目指すものに分け、表 6 のとおり整理した。

なお、ワーキンググループメンバーにおいて既に取り組んでいるものも表 6 には含まれるが、取組によって期待できる効果の再確認や、現在の取組をきっかけに追加の施策につなげる可能性をふまえ、表中で整理している。

表 6 施策の一覧

方向性	短期的な取組	中長期的な取組	目指す効果
体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> 1 今回の WG メンバーによる話し合いの場の維持 WG メンバー各社の若手が集まる場の定期的な開催 	<ul style="list-style-type: none"> 2 島民・町民や、町外のファンなど、一般の方の中からも賛同いただける方を集め、組織化 	<ul style="list-style-type: none"> 島のファン・関係者を可視化し、地域振興や自然保護への取組に力になってもらうことで、地域の負担を少しでも軽減する
島の魅力発信・生態系保全	<ul style="list-style-type: none"> モデルコースの作成 羽幌町シーバードフレンドリー推進協議会 (SBF 協議会) と羽幌町観光協会の連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> 3 焼尻島の散策ルート整備・発信 / 天売島モデルコースの情報発信強化 4 保全協力金・募金 5 町内での島の情報発信や島との交流を強化 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境の保全に対する支援を集めるとともに、海鳥などの生態系の価値を町内外に認知してもらう 島の自然を楽しむ方法を紹介し、アウトドア初心者や島めぐりを主目的とする方 (動植物への関心は必ずしも高くない) に魅力をより感じていただく
フェリーターミナルの活用	<ul style="list-style-type: none"> 6 羽幌港フェリーターミナルの掲示物整理・海鳥や動植物の写真を掲示 アウトドアグッズ貸出・お土産販売の強化 (羽幌町観光協会にて既に実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 物販・展示機能の対外的な発信を強化 (道の駅に並ぶ観光の拠点と位置付ける) 	<ul style="list-style-type: none"> 羽幌港を訪れたがフェリーに乗らない方に島の魅力を認知してもらうことで、羽幌町を再訪した際に島を訪れてもらう 島に行く前に島の情報を知ることによって、楽しさや学びの効果を高めるとともに、マナー向上等にもつなげる
情報の整理	<ul style="list-style-type: none"> 7 フェリーの乗り方を写真と文で解説 SNS を活用したフェリーの情報発信強化 (羽幌沿海フェリーにて既に実施) 	<ul style="list-style-type: none"> キャッシュレス化やオープンデータ化等による、業務効率化とサービス改善の両立 	<ul style="list-style-type: none"> フェリーに乗り慣れていない方にも、島に行く心理的な障壁を取り払う 将来的には外国からの観光客等も快適に散策できる環境 (まずは日帰りを想定) の整備を徐々に進める

表 6 において、特に優先度の高い施策を 7 つ選定し、次頁以降で具体的な内容を整理した。

離島航路の維持・活性化に向けた力を集約するための体制をつくる

① 関係者の連携強化

主体	フェリー	沿岸バス	観光協会	羽幌町 商工観光課	羽幌町 町民課	環境省・ SBF 協議会	その他
役割	◎	◎	◎	○	○	○	

<p>既存の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 離島航路確保維持協議会で、年に2回会合が行われている。 	▶	<p>目指すこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本年度議論した施策の実現に向けて、各者の連携を維持する。 ● フェリーの利用促進を目指す町内の主要関係者が集まり、観光振興について協議する機会を確保する。
--	---	---

◆案1:若手ワークショップの開催

- 各者の若手メンバーが離島の地域振興について、取組や各団体への要望を中心に話し合う場を設ける（年間2回程度）。
- 現場の視点で課題感を出し合うことで、通常の会議では話し合えないことを話し合える場づくりを目指す。
- 若手メンバーへの継承を意識し、各者が合意できるアイデアがあれば実現に向けて各団体が支援を行うことも約束する。
（メンバー例）羽幌町観光協会、羽幌町地域おこし協力隊、羽幌沿海フェリー、沿岸バス、羽幌町自然保護官事務所

◆案2:データ活用ワークショップの開催

- フェリーの就航状況や、バスの路線データ・運行状況などについて、データを活用した利便性向上に向けて分析・活用チームを立ち上げる。
- 各種実証事業等を活用しながらデータ利用を切り口に協議を重ね、公共交通に関する課題感の共有・利便性向上につなげる。
（メンバー例）沿岸バス、羽幌沿海フェリー、羽幌町観光協会+有志

◆活用できる支援事業例

- 国土交通省「地域公共交通共創モデル事業 人材育成事業」²²
多様な主体の共創による地域公共交通の活性化を目指す取組に対する支援

◆他地域の事例（上記の支援事業以外による取組を含む）

- 東海汽船の就航予想（東京都伊豆諸島）²³
東京都立大島海洋国際高校では、過去の気象データや運航データなどを AI に取り込み、欠航予想を実施（同校X[旧 Twitter]で発信）。プログラミング不要のシステムを使いながら、精度95%の予想を実現した。

② 外部のファン取り込み

主体	フェリー	沿岸バス	観光協会	羽幌町 商工観光課	羽幌町 町民課	環境省・ SBF 協議会	その他
役割	○	○	◎			○	島側のキーパーソン

既存の取組
<ul style="list-style-type: none"> ● イベント開催にあたり、町内でボランティア・出店者を募っている。 ● 天売島・焼尻島では大学や専門学校の合宿を受け入れている。



目指すこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 外部ファンに「現地に行かなければわからない最新情報」を共有し、行きたい気持ち・現地での満足の良い循環につなげる。 ● イベントの手伝い募集などを効果的に行う・好意的に捉えてもらう。

◆案1：大学等で訪れた方のグループ化

- ゼミの研究等で訪れる学生の OB・OG をグループ化する（例：地域のキーパーソン・コーディネーターを含めた LINE グループ、Slack など）。
- 学生と地域側コーディネーターだけでは難しい部分（目的を理解してもらう、地域と関わる上での留意点を事前に学ぶ、細かな相談に乗るなど）を OBOG に手伝ってもらうことで、彼らの取組が地域にさらに貢献できることを目指す。
- プライベートでの来訪や、本業での支援につながる可能性も期待できる。

◆案2：Facebook グループの運営

- 島に興味のある方が集まり、最新の島の状況（海鳥の観察結果、天気、臨時休業など）を投稿できるグループを作る。
- 管理人が許可した投稿のみ共有される機能を設けるか、入会時にマナーを守っていただくことを約束させるなどして、情報の正確さや荒らし対策も担保する。
- Facebook グループにはイベントの公式情報や、準備状況（通常では見れない部分）などを見せて「特別感」を出せると良い。また、ボランティア募集などもかけられると地域に貢献する。

◆活用できる支援事業例

- 国土交通省観光庁「第二のふるさとづくりプロジェクト モデル実証事業」
「何度も地域に通う旅、帰る旅」の普及を目指して、環境整備やマーケティングを支援する実証事業

◆他地域の事例（上記の支援事業以外による取組を含む）

- 黒川温泉の「第二村民制度」（熊本県小国町）²⁴
黒川温泉旅館組合が行う事業。無料で会員登録でき、イベントの運営補助などのボランティアや、公式クリエイティブの参加（写真・動画の被写体）、会員限定イベントへの参加などができる（2024年1月現在、新規の受付は停止中）。貢献した方はポイントを付与され、宿泊料金の値引きを受けられる。

自然豊かな島の魅力を発信し、保全に係る努力に共感を集める

③ モデルコース作成・発信

主体	フェリー	沿岸バス	観光協会	羽幌町 商工観光課	羽幌町 町民課	環境省・ SBF 協議会	その他
役割	○	○	◎	○		○	

既存の取組
<ul style="list-style-type: none"> ● 「宝島」など、島の散策を促すプログラムが提供されている。 ● 夏季は日帰りで島を一周できる環境が整っている。 ● サンセットプラザ7階の展望室を活用し、待ち時間の快適性が向上している。



目指すこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 焼尻島では、日帰りでの島めぐりを促進し、原生林散策などで自然を満喫いただく。 ● 天売島では、海鳥に詳しくない方でも楽しめる方法を提案する。

◆案1：日帰り・宿泊それぞれのモデルコース発信

- 季節（船ダイヤ）ごとに、島の過ごし方を提案する。既存の観光資源の「まわり方」を紹介する（=たき台を提示する）ことで、島の様々な資源に気づいてもらうことが狙い。
- 観光協会 HP で発信し、フェリーHP（島に行きたい方が必ず見る）からのリンクで誘導する。
- 今後は、観光ガイドマップへの掲載や、SNS・動画等で実際に巡った様子の発信までできると良い（旅行者に投稿してもらうのも良い）。

◆案2：セルフガイドツールの作成

- 二次元コードを島内の主要スポットに設置し、読み取ると解説音声がかかる仕組みなど、ガイドを手配せずに自分のペースで島を楽しめる仕掛けを用意する。
- 音声や読み物など、動画に比べて大掛かりではないコンテンツも考えられる。ナンバリングしてコースを複数用意することも可能。
- すべて巡った方にプレゼントすることで、周遊を促すことも期待できる。（コンテンツを再生した、二次元コードを読み取ってポイントを貯めたなど）。

◆活用できる支援事業例

- 農林水産省「農泊促進事業」²⁵
農林漁業資源を活用した飲食・宿泊・体験の提供に取り組む地域協議会の立ち上げ・運営を支援する事業。

◆他地域の事例（上記の支援事業以外による取組を含む）

- 山形県飛島のガイドブック（山形県酒田市）²⁶
2～3時間の散策コースを紹介しているほか、季節ごとの見られるものの整理や、テーマ（例：夕日・花）ごとの鑑賞スポットマップなどを掲載し、通年楽しめる方法を紹介している。

④ 保全協力金・募金

主体	フェリー	沿岸バス	観光協会	羽幌町 商工観光課	羽幌町 町民課	環境省・ SBF 協議会	その他
役割	○		◎	○	◎	◎	

既存の取組
<ul style="list-style-type: none"> ● SBF 協議会では、海鳥保全に向けたふるさと納税（ガバメンタルクラウドファンディング）を募集している。



目指すこと
<ul style="list-style-type: none"> ● より多くの方が、寄付に参加することで、保全活動を活性化する。 ● 自然資源を鑑賞する「対価」を観光客に提示することで、島の持つ自然の価値を再認識してもらう。

◆取組にあたっての検討事項

集まった寄付金の管理者を明確にすることが最も重要となる（代理徴収や、売上の一部など間接的な寄付により他者も参加可能）。用途の透明性と、公共性の確保が求められる。

（主体となりうる団体）

- ・ 観光協会、SBF 協議会 → 既存の活動に充てると明記して良い
- ・ 財団を作る → 目的を明確化できる反面、事務の手間が増える
- ・ 羽幌町 → 任意で徴収する際の説明（公平性担保）が課題となる

◆案1：寄付付きのお土産販売

- 観光協会等で販売しているグッズの売上の一部を寄付する（海鳥を模したグッズなどに絞っても良い）。
- 自動販売機の売上の一部を充てても良い。

◆案2：セルフガイドツールの作成

- 環境省・島内関係者等と協議しながら、協力金の支払いを求める仕掛けを検討する。
- 徴収に人手を割くと赤字になる可能性があるため、キャッシュレス（例：バーコード決済用の二次元コードを設置）や募金箱、自動販売機などが良い。
- 相場を明記した上で金額を自由に設定できることで、寄付のハードルを下げられる。
- 「〇円以上でポストカードをプレゼント」などお礼の品（インセンティブ）があると、寄付者の動機づけになる。

◆活用できる支援事業例

- 国土交通省観光庁「持続可能な観光の促進に向けた受入環境整備促進事業」²⁷
オーバーツーリズムやマナー問題、ゴミ問題等を予防する取組に対する支援。

⑤ 本土と島の関係強化

主体	フェリー	沿岸バス	観光協会	羽幌町 商工観光課	羽幌町 町民課	環境省・ SBF 協議会	その他
役割	○		◎	◎	○	○	(羽幌町教育委員会)

既存の取組
<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊施設等でパンフレットやふるさと納税の案内を設置するなど、連携の機運が高まっている。 ● 町内の子どもが離島を訪れる研修を行っている。 ● SBF 協議会で、海鳥に配慮した取組を行う農水産物を認証している。

目指すこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 人の交流として、本土在住の方が島を訪れる機会を作る。 ● 物の交流として、島の産品を使う飲食店・宿泊施設を取りまとめる。 ● 観光客に対し、本土で島の資源を認識・体験できる仕組みを作る。

◆案1：宿泊研修による相互理解の促進

- 町内の子どもを対象とした宿泊研修や、探究学習などを継続する（総務省事業等を活用しながら、継続的に受入ができる体制確保と、学びが将来に活かされる仕組みを目指す）
- 受入にあたっては、島外に住むインストラクターを必要に応じて派遣するなど、受入体制の確保が必要。
- 宿泊研修は、大人向けの取組を行っても良い。

◆案2：島産・町内産食材を使う店のリスト化

- 天売・焼尻の産品（ウニ、サフォーク、海藻など）を使う飲食店を認証する。島内に限らず町内全域で取り組む店を増やす（公平性や、供給面の懸念などから、町産食材と、島産食材で二段階の認定にしてもよい）
- 認定に際して、観光振興への協力なども要件にすることで、単なるリスト化ではなく飲食・宿泊事業者の協力体制を確保するといった副次的な効果も期待できる

◆活用できる支援事業例

- 総務省「子どもの農山漁村交流プロジェクト」²⁸
送り側と受入側の地方自治体が連携しながら、宿泊を伴う農山漁村地域での教育活動（学校教育・社会教育）を実施する取組に対する支援。

◆他地域の事例（上記の支援事業以外による取組を含む）

- **山口県ゆかりのお店**（山口県東京事務所）²⁹
東京都内で山口県産食材を提供する飲食店を認定し、県にゆかりのある人の利用を促している。
- **東京島じまん食材使用店**（東京都伊豆諸島・小笠原諸島）³⁰
東京都の島しょ部において、島の食材を使用し、かつ観光振興や食育等の活動に協力する飲食・宿泊事業者を認定し、情報発信等を行う仕組み。

島のベースキャンプとしてフェリーターミナルを位置づけ、船に乗らない方にも魅力を伝える

⑥ 羽幌港で島の写真掲出

主体	フェリー	沿岸バス	観光協会	羽幌町 商工観光課	羽幌町 町民課	環境省・ SBF 協議会	その他
役割	◎		○	○		◎	

既存の取組
<ul style="list-style-type: none"> ● 多くの海鳥ファンが島を訪れており、写真撮影を楽しむ方も多い。 ● 羽幌港フェリーターミナルの写真や剥製が観光客に親しまれている。



目指すこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 旅行者の力を借りて魅力を発信する。特に「生き物に詳しい方」が「ライトな自然好き」に紹介できるコンテンツがあると良い。 ● 季節ごとの楽しみ方を紹介することで、「何も無い島」と思わせない。 ● 生態系保全に向けた意識醸成にもつなげる。

◆案1：海鳥や植物などの図鑑をみんなで作るプロジェクト

- 生物種ごとに写真を募集し、定期的に入替を行う。
- 写真を掲出するだけでなく、「見た」「見たい」をシールで投票したり、最新の目撃情報をホワイトボードで記載するなど、「最新情報」「参加型」「観光案内につなげる」観点を取り入れる。

◆案2：カレンダーの制作・販売

- フォトコンテストを行い、月ごとの優秀作品をカレンダーとして取りまとめ、販売する。
- 売上の一部を海鳥の保全に活用するなど、買う理由をつけることも効果的である。

◆他地域の事例

● 越後トキめき鉄道(新潟県)³¹

フォトコンテストを開催し、ファンが撮影した作品をカレンダーとして販売している。

ファンにとっては作品が広く公開されるだけでなく、「鉄道会社に見てもらえる」「鉄道会社に貢献できる」といったメリットが考えられる。鉄道会社にとっては、ファンとのコミュニケーションを強化できる上に、グッズ販売を通して収益につなげられる。

⑦ フェリーの乗り案内

主体	フェリー	沿岸バス	観光協会	羽幌町 商工観光課	羽幌町 町民課	環境省・ SBF 協議会	その他
役割	◎		◎	○	○		

<p>既存の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 羽幌港へのアクセスや予約の有無、よくある質問などがHPに掲載されている 	▶	<p>目指すこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 予約から乗船までの一連の流れを確認できるコンテンツを整備し、島に行く心理的な障壁を下げる。 ● 乗客の目線で確認することで、子ども連れ、ペット連れ、障がいのある方、外国の方など、多様なニーズに対応する素地を整える。
--	---	---

◆案1：日帰り・宿泊それぞれのモデルコース発信

- 動画は技術が必要なため、まずは写真で対応し、HPに掲載する。
*羽幌沿海フェリーのInstagramアカウントで、ストーリーハイライトとして複数の写真や短い動画をトップページに固定表示させておくことも効果的。
- 羽幌町のマスコットキャラクター「オロ坊」が乗客役を演じるなど、目を引く工夫があっても良い。
- 将来的には、車いすを使ったデモンストレーションなどを取り入れ、多様なニーズに対応できると良い。

◆案2：フェリーの乗り方ワークショップ

- 公共交通の利用促進策として、多くの地域で行われている取組。
- 子ども向けにワークショップを行う場合、「清掃作業などを通して頑張っている大人の姿を見せる」「実際にお金を使って乗車体験することで、仕事の対価を理解する」など、教育的効果も期待できる³²。

◆他地域の事例

- 佐渡汽船「乗船ガイド」(新潟県)³³
予約から乗船までの一連の流れが写真と文章で紹介されている。「ターミナルにはそばコーナーがございます。」と、消費を促す一言も添えられている。

参考文献

- ¹ 羽幌町「羽幌町の人口と世帯数」(<https://www.town.haboro.lg.jp/jinkou/>) ※各年 3 月末の人口
- ² 総務省統計局「国勢調査」(各年)
- 羽幌町「商工観光概要」(<https://www.town.haboro.lg.jp/gyousei/shiryou-toukei/syoukougannkougaiyou/>) および北海道留萌振興局「留萌管内観光入込客数調査」(<https://www.rumoi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/srk/ks/irikomi.html>)
- ³ 北海道羽幌町「商工観光概要」および北海道留萌振興局「留萌管内観光入込客数調査」。なお、1992 年より前は 4~9 月のみの集計。人口は総務省統計局「国勢調査」による。
- ⁴ 総務省統計局「令和 2 年国勢調査」
- ⁵ 北海道羽幌町(2012 年)「羽幌町離島振興計画(仮称)策定のためのアンケート」(<https://www.town.haboro.lg.jp/gyousei/shisaku-plan/ritousinkouanke-to.html>)
- ⁶ 北海道羽幌町「商工観光概要」各年版(<https://www.town.haboro.lg.jp/gyousei/shiryou-toukei/syoukougannkougaiyou/>)
- ⁷ データの提供:羽幌沿海フェリー株式会社 ※同社の決算月に合わせ、10 月から 9 月を 1 年度としている。
- ⁸ 国土交通省(2012 年)「地域公共交通の確保・維持・改善に向けた取組マニュアル」(<https://www.tb.mlit.go.jp/kinki/kansai/program/manual.htm>)
- ⁹ 「離島振興対策実施地域の振興を図るための基本方針」(https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chirit/kokudoseisaku_chirit_fr_000004.html)
- ¹⁰ 北海道「北海道離島振興計画」(https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chirit/kokudoseisaku_chirit_fr_000005.html)
- ¹¹ 北海道羽幌町「第 2 次羽幌町離島振興計画」(<https://www.town.haboro.lg.jp/gyousei/shisaku-plan/2023-0407-1105-21.html>)
- ¹² 北海道羽幌町(2014 年)「羽幌町エコアイランド構想」(<https://www.town.haboro.lg.jp/gyousei/shisaku-plan/ecoislandkousou.html>)
- ¹³ 北海道羽幌町「第 7 次羽幌町総合振興計画」(<https://www.town.haboro.lg.jp/gyousei/shisaku-plan/2022-0407-1638-21.html>)
- ¹⁴ 北海道羽幌町「羽幌町過疎地域持続的発展市町村計画(令和 3 年度~令和 7 年度)」(<https://www.town.haboro.lg.jp/gyousei/shisaku-plan/kaso-jiritsusokushin.html>)
- ¹⁵ 北海道羽幌町「羽幌町都市計画マスタープラン」(<https://www.town.haboro.lg.jp/gyousei/shisaku-plan/toshikeikaku-master.html>)
- ¹⁶ 「羽幌町都市計画マスタープラン」に加筆
- ¹⁷ 北海道「第 5 期 北海道観光のくにづくり行動計画~『観光立国北海道』の再構築~」(https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/252-kodo_keikaku/koudoukeikaku.html)
- ¹⁸ 北海道「第 5 期(令和 3 年度~7 年度)北海道観光のくにづくり行動計画」の概要に加筆
- ¹⁹ 北海道「北海道交通政策総合指針重点戦略【2021-2025】—ポストコロナを見据えた新たな未来に向けた共創と共生—」(https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/stk/2021_2025.html)
- ²⁰ 国土交通省北海道運輸局「北海道離島航路確保対策協議会(羽幌航路)における地域公共交通確保維持改善事業の概要」(<https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/content/000291500.pdf>)
- ²¹ 北海道留萌振興局「北海道留萌管内地域公共交通計画」(<https://www.rumoi.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/156076.html>)
- ²² 国土交通省「地域公共交通共創モデル事業」(<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/kyousou/>)
- ²³ ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社「専門知識のない高校生が AI を駆使した就航予測を実現!」(<https://predictionone.sony.biz/case/16oosimakaiyokokusai/>)
- ²⁴ 黒川温泉観光旅館協同組合「第二村民制度」(<https://www.kurokawaonsen.or.jp/dainisonmin/>)
- ²⁵ 農林水産省「『農泊』の推進について」(https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/nouhakuuishin/nouhaku_top.html#)
- ²⁶ 山形県酒田市「飛鳥さんぽガイドマップ(令和 5 年度版)」(<https://www.city.sakata.lg.jp/sangyo/kotsu/teikisen/tobishimasyokai/map.html>)
- ²⁷ 国土交通省観光庁「持続可能な観光の促進に向けた受入環境整備促進事業」(https://www.mlit.go.jp/kankocho/page08_000227.html)
- ²⁸ 総務省「子どもの農山漁村交流プロジェクト」(https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/kodomo.html)
- ²⁹ 山口県東京事務所「山口県ゆかりのお店」(<http://www.oidemase-t.jp/shops/>)
- ³⁰ 東京都産業労働局「東京島じまん食材使用店」(<https://www.shimajiman.metro.tokyo.lg.jp/>)
- ³¹ 越後トキめき鉄道株式会社「2024 年カレンダー発売中です」(<https://www.echigo->

tokimeki.co.jp/information/detail?id=1982)

- ³² 大野悠貴氏講演資料「子どもたちを対象としたモビリティ・マネジメントの適切な実施～乗り方教室などの出前講座の意義や実例を学ぶ～」(<https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/mie/kikaku/seminar/30.11/4.pdf>)を参考にした。
- ³³ 佐渡汽船「乗船ガイド」(<https://www.sadokisen.co.jp/boarding-guide/>)

付録

(1) アンケート調査

① 調査分析の概要

質問内容

観光の繁忙期に実施するため、観光目的での利用を想定した質問内容とした(表 7)。

表 7 質問文の一覧

セク ション	番号	回答形式	質問文
回答者の 属性	Q1	SA	乗船日をお選びください。
	Q2	MA	今回乗船する区間を、すべてお選びください(これから乗る予定も含めてすべて)。
	Q3	MA	今回乗船される便の、種別をお選びください。
	Q4	SA	年代
	Q5	SA	性別
	Q6	SA	お住まいの地域
	Q7	SA	道内の方は【市町村】をお知らせください。
	Q8	SA	道外の方は【都府県】をお知らせください。
	Q9	SA	道外からお越しの方は、北海道に到着・出発する空港等をお知らせください。
	Q10	FA	「その他の空港」「鉄道駅」「フェリー港」を選ばれた方は、具体的な名称をお知らせください。
公共 来訪 交通の 手段・ 利用	Q11	MA	あなたが住まいのところから(道外の方は到着した空港等から)羽幌港までの移動で、使った移動手段をすべてお選びください。
	Q12	MA	前問で「路線バス・高速バス」をお選びいただいた方にお聞きします。あなたが乗車されたバス路線をお選びください(途中乗車・途中下車も含まれます)。
	Q13	MA	Q11で「路線バス・高速バス」を【選ばなかった方】にお聞きします。バスを選ばなかった理由をすべてお選びください。
	Q14	MA	「こんなサービスがあれば、バスを使ってみたい」と思うことはありますか。あれば、すべてお選びください。
フェリ ーにつ いて	Q15	SA	今回乗船された目的をお知らせください。
	Q16	SA	今回、一緒にフェリーに乗っている方はいますか。
	Q17	MA	今回の乗船にあたり、利用したサービスをすべてお選びください。
	Q18	MA+FA	【島民以外】の方にお聞きします。あなたが今回訪問する島と、滞在日数をお知らせください。天売島
	Q19	MA+FA	【島民以外】の方にお聞きします。あなたが今回訪問する島と、滞在日数をお知らせください。焼尻島
	Q20	MA+FA	【島民以外】の方にお聞きします。あなたが今回訪問する島と、滞在日数をお知らせください。その他道内
	Q21	FAMAT	【島民以外】の方にお聞きします。今回の訪問にあたり、天売・焼尻を含む、羽幌町内で消費した1人あたりの金額を千円単位でお知らせください(これから消費する予定の分も含めて、ご記入ください)。天売島・焼尻島での消費額
	Q22	FAMAT	【島民以外】の方にお聞きします。今回の訪問にあたり、天売・焼尻を含む、羽幌町内で消費した1人あたりの金額を千円単位でお知らせください(これから消費する予定の分も含めて、ご記入ください)。天売島・焼尻島での消費額羽幌町(本土)での消費額
	Q23	SA	【島民以外】の方にお聞きします。これまでに天売・焼尻を訪れた回数をお知らせください。
	Q24	MA	【観光目的】で乗船された方にお聞きします。旅行の目的をすべてお選びください。
Q25	MA	【観光目的】で乗船された方にお聞きします。来島前にどのように情報収集をしましたか(すべてにチェック)。	
フェリ ー・島 につ いて	Q26	SAMAT	帰り便に乗船した方は、今回の天売・焼尻での滞在について、それぞれの項目の満足度をお知らせください。
	Q27	SA	あなたは、今後天売島・焼尻島を訪れたいと思いますか。
	Q28	MA	天売島・焼尻島を訪れるときに、あったら良い・もっと充実させてほしいと思うサービスや商品はありますか。
	Q29	FA	天売島・焼尻島での滞在や、フェリーの利用について、感想や意見などをご自由にご記入ください。
そ の 他	Q30	SA	「個人情報の取り扱いについて」に同意し、プレゼントの抽選に応募しますか。
	Q31	FA + MAT	お名前・ご住所・メールアドレス・電話番号をご記入ください。

※SA=単一選択/MA=複数選択/FA=自由記述/MAT=表で回答(各項目について選択)

※網掛け部は一部の回答者に限定した質問(Web版では分岐設定の対象)

分析方法

観光客のニーズを特に把握するために、居住地と、来訪目的・居住地別にクロス集計を行った。Q6・Q15 の回答結果をもとに集計し、各属性の人数は表 8 のとおりになった。

表 8 クロス集計の分析軸と塗り分け

居住地別		目的・居住地別		塗り分けの色・基準	
天売・焼尻	19名 (5.7%)	観光(道内)	158名 (47.0%)		全体よりも10%以上多い
道内	230名 (68.4%)	観光(道外)	69名 (20.5%)		同 5%以上多い
道外	87名 (25.9%)	ビジネス	20名 (6.0%)		同 5%以上少ない
		帰省	75名 (22.3%)		同 10%以上少ない
		島からの移動	14名 (4.2%)		※N=30以上のセルが対象

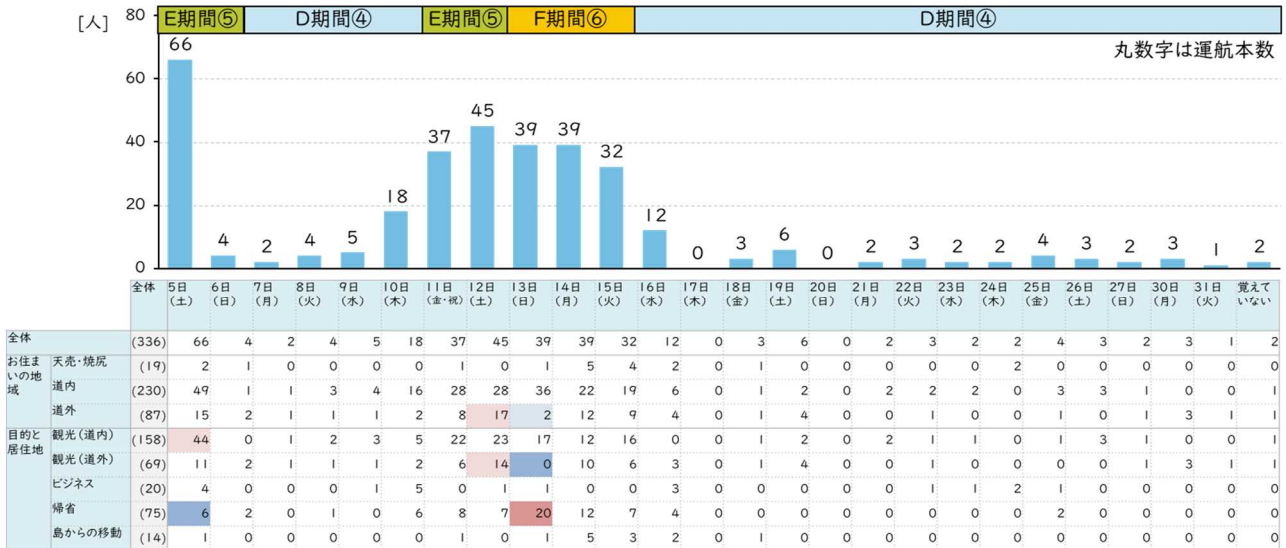
全体の割合と比べて、±5%・±10%以上差があるセル(属性)には、塗り分けを行った。ただし、統計的に有意な水準を確保するため、30名以上のセルのみが塗り分けの対象となる(天売・焼尻、ビジネス目的・島からの移動は塗り分けの対象外)。

② 回答者の属性

乗船日

- 回答者の乗船日は、「焼尻めん羊まつり」が行われた8月5日(土)が最も多く、66回答を得られた。
- 次いでフェリーの運航本数が多くなる11日～15日の期間にかけて平均38.4回答で推移した。
- 8月16日以降は運行本数が減少したことに伴い回答数が大幅に減少し、1日あたりの回答者数は0～6人で推移した。

Q1. 乗船日をお選びください。

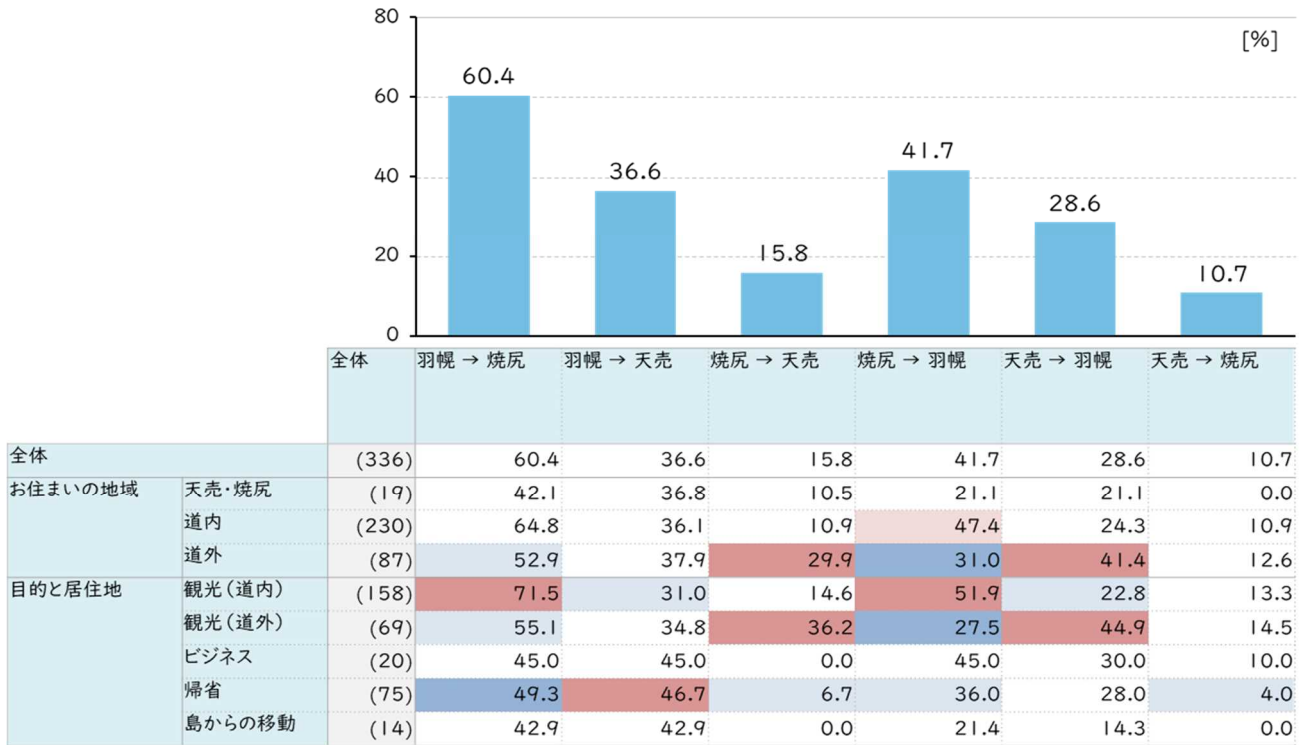


調査員がQRコードを配布

乗船した区間

- 8月5日に実施された「焼尻めん羊まつり」の回答者が多い影響もあり、羽幌～焼尻間での移動が最も多く、「羽幌→焼尻」間が60.4%、「焼尻→羽幌」間が41.7%と、往路・復路とも天売島より割合が高くなった。
- 天売～焼尻を選ぶ方は往復どちらも1割強と低く、1回の滞在で2つの島を訪れる方は少ないといえる。

Q2. 今回乗船する区間を、すべてお選びください(これから乗る予定も含めてすべて)。



乗船した船の種別

- 乗船した船の種別(フェリーか高速船か)を尋ねたところ、天売～羽幌間の方が焼尻～羽幌間よりも高速船を利用する比率が高くなった。
- 来訪目的別にみると、観光客で高速船を利用する割合が高く、特に羽幌～天売では道内の観光客の71.4%が高速船を利用した。一方で、帰省客はフェリーを利用する割合が高く、羽幌～焼尻で70.3%、羽幌～天売で48.6%となった。
- 天売島と焼尻島との移動においては、距離が短いものの高速船の利用が過半数となった。距離が短いためフェリーと高速船の価格差が小さいことや、2島をめぐる観光客の利用が多く、運行する時間帯を優先して選択したことが、理由として予想される。

Q3. 今回乗船される便の、種別をお選びください。(Web 版では Q2.で選択した区間を表示)

【羽幌→焼尻】		全体	フェリー	高速船	わからない・未定
全体		(203)	56.7	42.9	0.5
お住まいの地域	天売・焼尻	(8)	62.5	37.5	0.0
	道内	(149)	56.4	43.0	0.7
	道外	(46)	56.5	43.5	0.0
目的と居住地	観光(道内)	(113)	51.3	47.8	0.9
	観光(道外)	(38)	52.6	47.4	0.0
	ビジネス	(9)	88.9	11.1	0.0
	帰省	(37)	70.3	29.7	0.0
	島からの移動	(6)	50.0	50.0	0.0

【焼尻→天売】		全体	フェリー	高速船	わからない・未定
全体		(123)	38.2	61.0	0.8
お住まいの地域	天売・焼尻	(7)	42.9	57.1	0.0
	道内	(83)	37.3	62.7	0.0
	道外	(33)	39.4	57.6	3.0
目的と居住地	観光(道内)	(49)	28.6	71.4	0.0
	観光(道外)	(24)	37.5	58.3	4.2
	ビジネス	(9)	44.4	55.6	0.0
	帰省	(35)	48.6	51.4	0.0
	島からの移動	(6)	50.0	50.0	0.0

【焼尻→羽幌】		全体	フェリー	高速船	わからない・未定
全体		(140)	49.3	48.6	2.1
お住まいの地域	天売・焼尻	(4)	75.0	25.0	0.0
	道内	(109)	45.0	52.3	2.8
	道外	(27)	63.0	37.0	0.0
目的と居住地	観光(道内)	(82)	36.6	59.8	3.7
	観光(道外)	(19)	63.2	36.8	0.0
	ビジネス	(9)	66.7	33.3	0.0
	帰省	(27)	70.4	29.6	0.0
	島からの移動	(3)	66.7	33.3	0.0

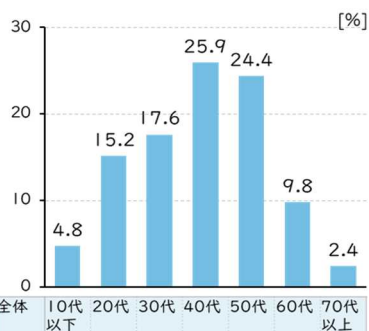
【天売→羽幌】		全体	フェリー	高速船	わからない・未定
全体		(96)	55.2	41.7	3.1
お住まいの地域	天売・焼尻	(4)	100.0	0.0	0.0
	道内	(56)	60.7	37.5	1.8
	道外	(36)	41.7	52.8	5.6
目的と居住地	観光(道内)	(36)	47.2	50.0	2.8
	観光(道外)	(31)	45.2	51.6	3.2
	ビジネス	(6)	83.3	16.7	0.0
	帰省	(21)	71.4	23.8	4.8
	島からの移動	(2)	100.0	0.0	0.0

【天売→焼尻】		全体	フェリー	高速船	わからない・未定
全体		(36)	30.6	69.4	0.0
お住まいの地域	天売・焼尻	(0)	0.0	0.0	0.0
	道内	(25)	28.0	72.0	0.0
	道外	(11)	36.4	63.6	0.0
目的と居住地	観光(道内)	(21)	33.3	66.7	0.0
	観光(道外)	(10)	40.0	60.0	0.0
	ビジネス	(2)	0.0	100.0	0.0
	帰省	(3)	0.0	100.0	0.0
	島からの移動	(0)	0.0	0.0	0.0

回答者の性年代

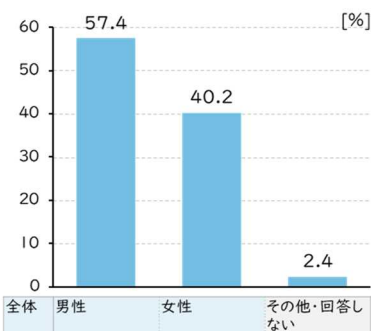
- 回答者の属性を年代別にみると、40代が25.9%、50代が24.4%と、ミドル世代で半数近くを占めた。
- 一方で、最も回答が少ないのは70代以上の2.4%となった。Webでの回答に不慣れなことが原因として考えられ、回答者層は利用実態とは必ずしも一致しないことに注意が必要。
- 性別では、男性からの回答が57.4%と過半数となった。

Q4. 年代



		全体	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体		(336)	4.8	15.2	17.6	25.9	24.4	9.8	2.4
お住まいの地域	天売・焼尻	(19)	15.8	10.5	10.5	31.6	10.5	21.1	0.0
	道内	(230)	3.5	16.5	17.0	26.1	27.0	7.4	2.6
	道外	(87)	5.7	12.6	20.7	24.1	20.7	13.8	2.3
目的と居住地	観光(道内)	(158)	5.1	15.8	17.7	24.1	29.7	5.1	2.5
	観光(道外)	(69)	4.3	11.6	18.8	23.2	23.2	15.9	2.9
	ビジネス	(20)	0.0	15.0	10.0	40.0	35.0	0.0	0.0
	帰省	(75)	2.7	17.3	18.7	30.7	14.7	13.3	2.7
	島からの移動	(14)	21.4	14.3	14.3	14.3	7.1	28.6	0.0

Q5. 性別



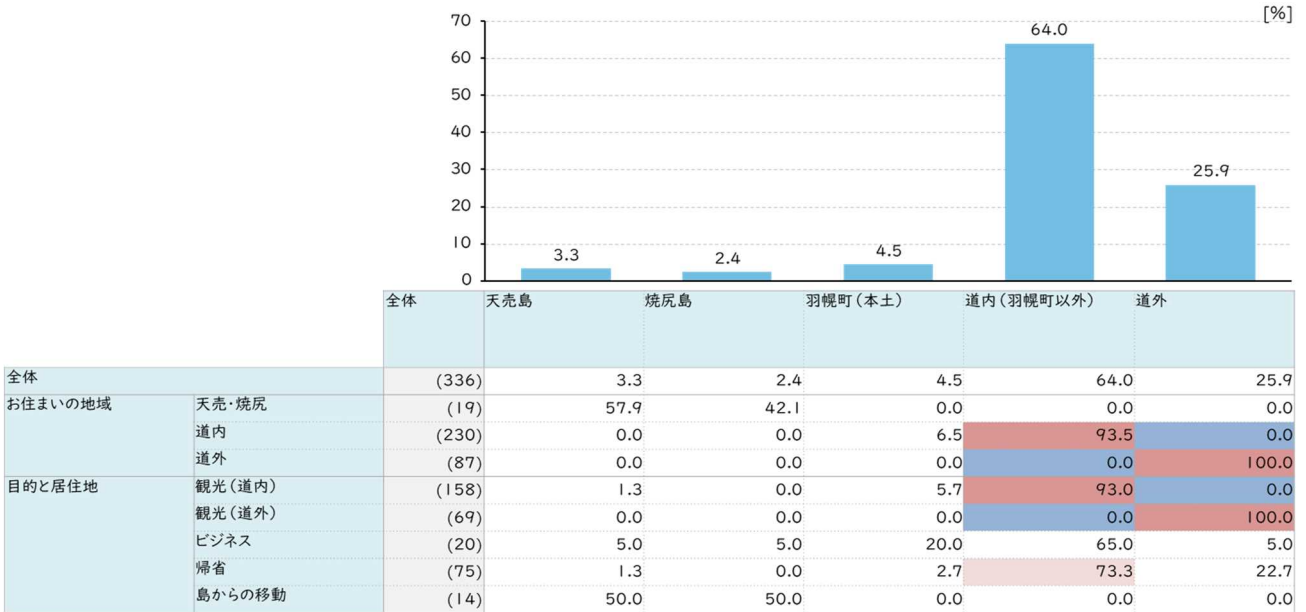
		全体	男性	女性	その他・回答しない
全体		(336)	57.4	40.2	2.4
お住まいの地域	天売・焼尻	(19)	52.6	47.4	0.0
	道内	(230)	58.7	39.6	1.7
	道外	(87)	55.2	40.2	4.6
目的と居住地	観光(道内)	(158)	58.9	38.6	2.5
	観光(道外)	(69)	62.3	31.9	5.8
	ビジネス	(20)	80.0	20.0	0.0
	帰省	(75)	45.3	54.7	0.0
	島からの移動	(14)	50.0	50.0	0.0

居住地

- 道内(羽幌町以外)からの来訪が 64.0%と最も多く、道外の 25.9%と合わせると 9 割近くが町外の利用者となった。

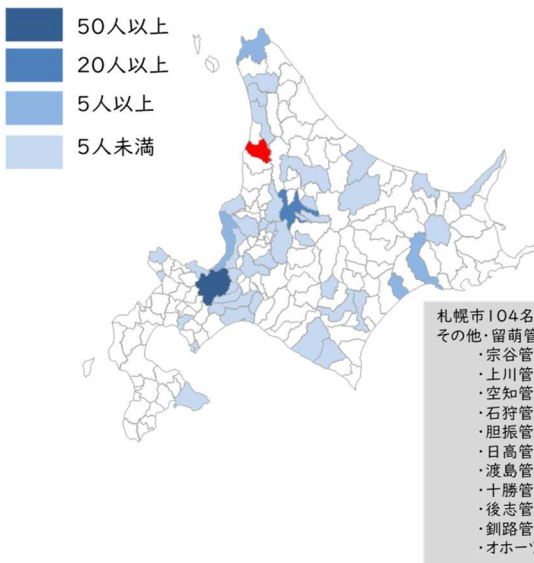
※ 70 代の回答が少ないことと合わせ、この結果においても住民等日常的にフェリーを利用する方の回答は少ないものとみられる。

Q6. お住まいの地域

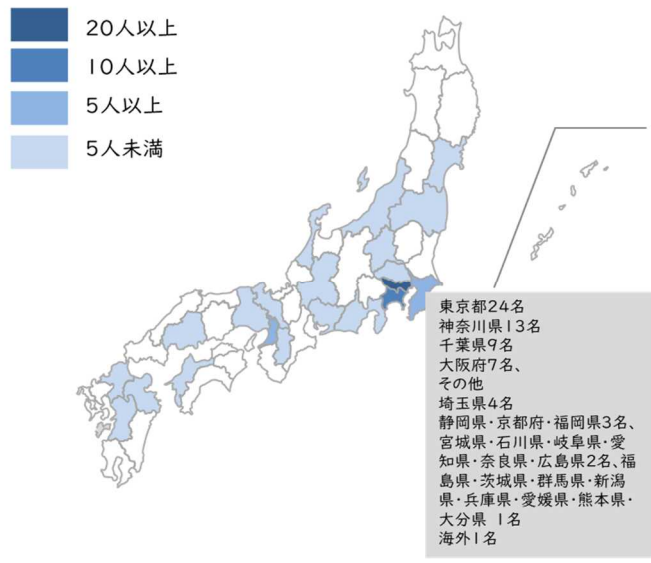


- 「道内(羽幌町以外)」「道外」を選択した方に、それぞれ市町村・都府県を尋ねたところ、道内では札幌市が 104 名と最も多く、旭川市が 21 名と続いた。振興局別にみると、札幌市を含む石狩管内が 119 名と最も多くなった。
- 道外からは、東京都が 24 名で最も多く、神奈川県が 13 名、千葉県が 9 名と続き、地方別では関東地方からの来訪が 51 名と最も多くなった。

Q7 道内の方は【市町村】をお知らせください。



Q8 道外の方は【都府県】をお知らせください。

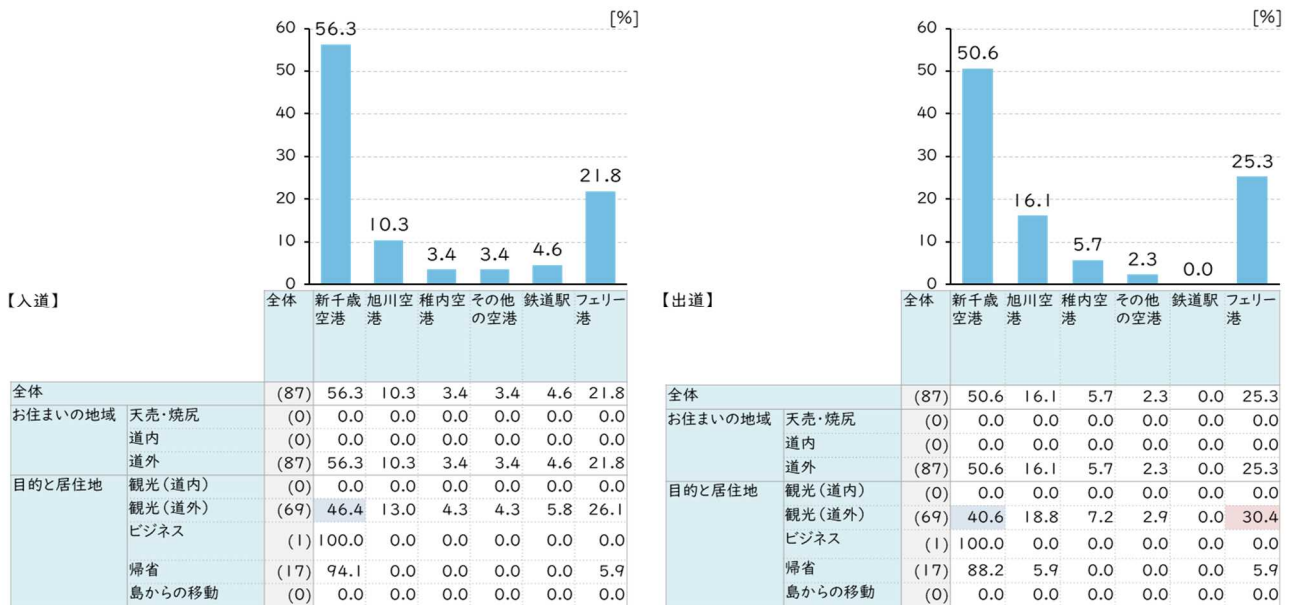


入出道の空港等

- 道外から来訪した方に、入道・出道した空港等を尋ねたところ、入道・出道ともに新千歳空港が過半数となった。
- フェリー港は入道で 21.8%、出道で 25.3%と、新千歳空港に次いで多くなった。ツーリングやドライブを目的とする方がフェリーで来道しているものと考えられる。なお、自由記述をみると、入出道とも少なくとも 9 名ずつが苫小牧港を利用している。
- 新千歳空港以外の空路利用者は、2 番目に多い旭川空港でも入道 10.3%・出道 16.1%となり、新千歳空港の利用が目立っている。

Q9. 道外からお越しの方は、北海道に到着・出発する空港等をお知らせください。

Q10. 「その他の空港」「鉄道駅」「フェリー港」を選ばれた方は、具体的な名称をお知らせください。

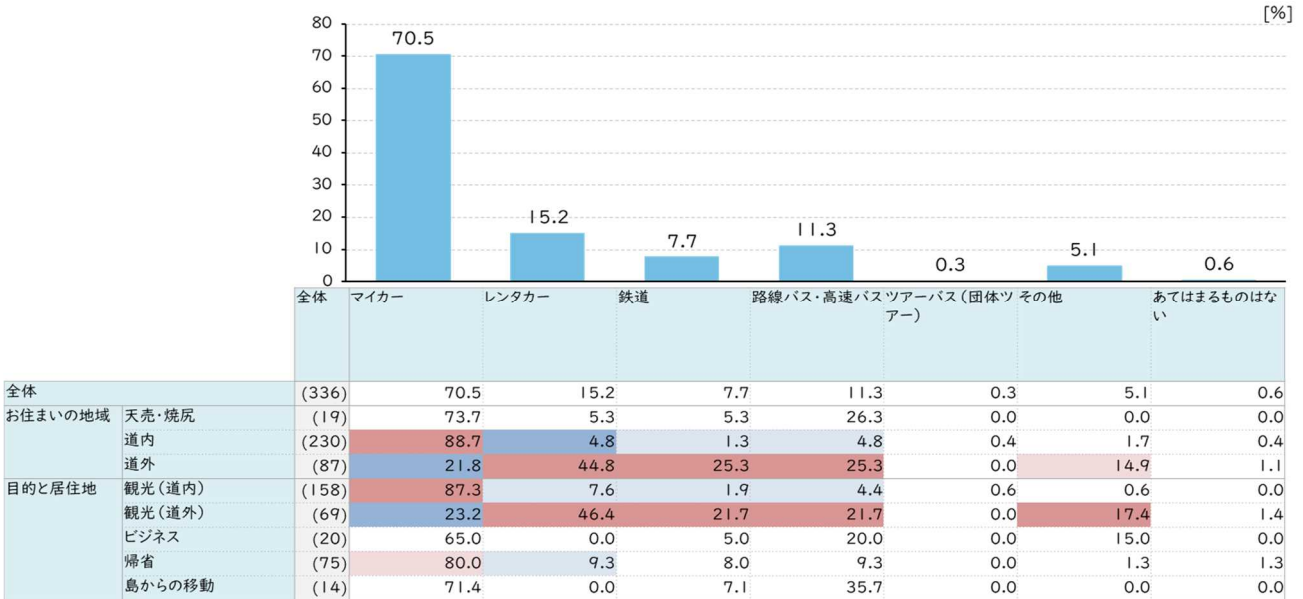


③ 来訪手段・公共交通の利用

羽幌港までの来訪手段

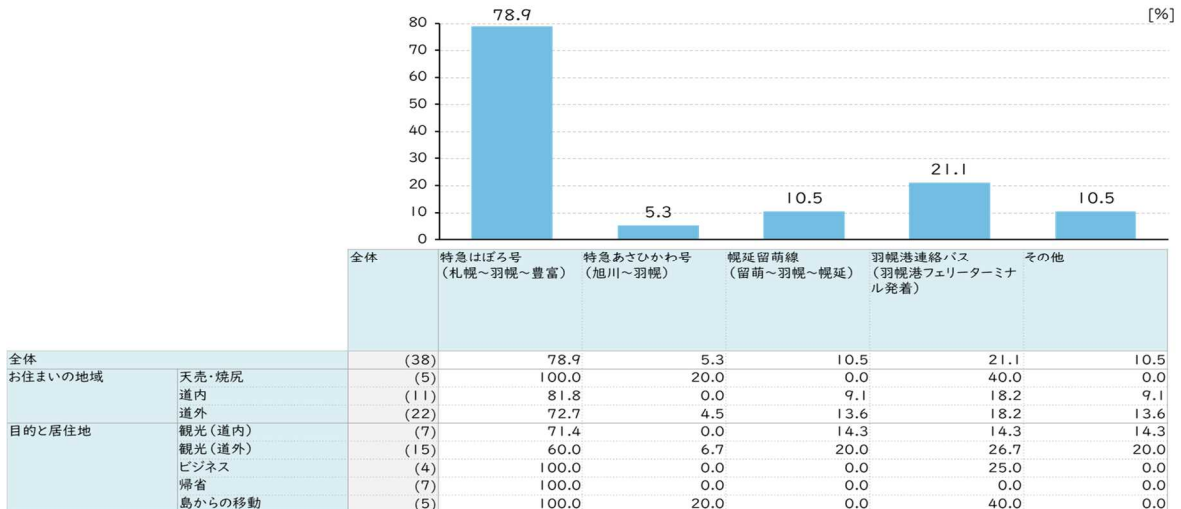
- 羽幌港までの来訪手段は、道内ではマイカーが 88.7%、道外ではレンタカー44.8%と、道内・道外とも自動車の利用が最多となった。
- 公共交通である「鉄道」や「路線バス・高速バス」の利用は、道内はいずれも数%と少ない一方、道外では鉄道・バスとも 25.3%と一定の利用があった。

Q11. あなたがお住まいのところから（道外の方は到着した空港等から）羽幌港までの移動で、使った移動手段をすべてお選びください。



- 「路線バス・高速バス」を選択した方に利用路線を尋ねたところ、「特急はぼろ号」は 78.9%と最多となった。札幌からの来訪が多いことも寄与していると考えられる。
- 一方で、羽幌港連絡バスの利用は 21.1%にとどまっており、徒歩やタクシー等で羽幌港へ移動する方も一定数いると考えられる。

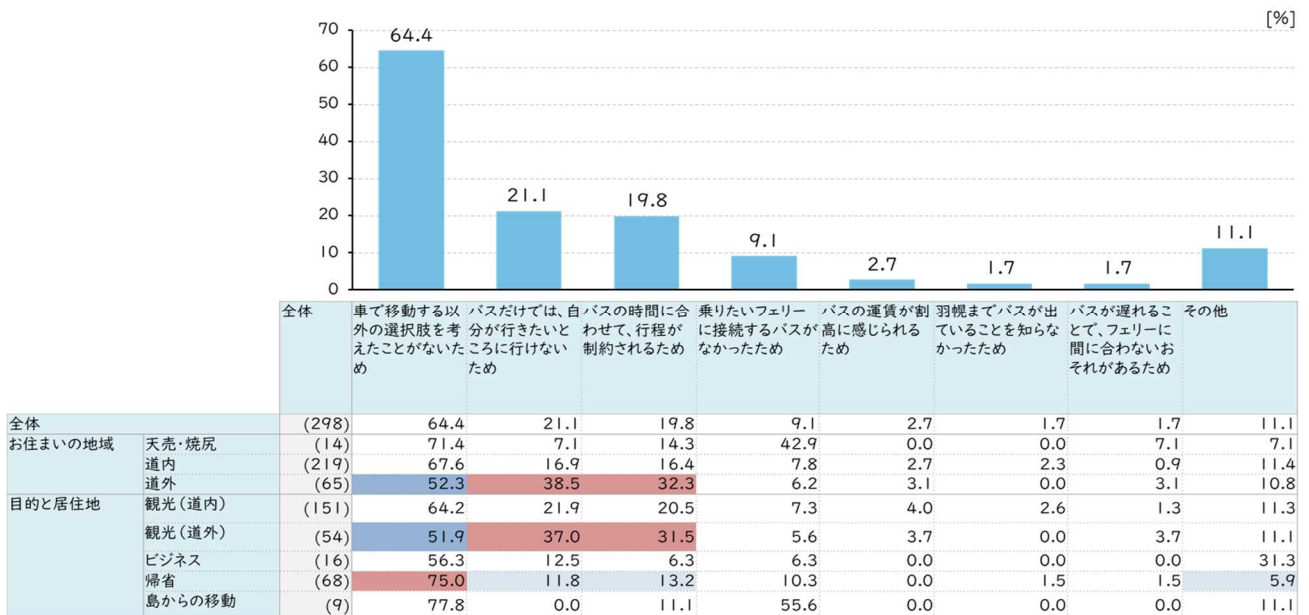
Q12. 前問で「路線バス・高速バス」をお選びいただいた方にお聞きます。あなたが乗車されたバス路線をお選びください（途中乗車・途中下車も含みます）。



バスを利用しない理由

- バスを利用しなかった方に選択しなかった理由を尋ねたところ、「車で移動する以外の選択肢を考えたことがなかったため」が **64.4%**と、他の選択肢よりも圧倒的に多く首位となった。
- 「バスだけでは自分が行きたいところに行けないため」「バスの時間に合わせて行程が制約されるため」がいずれも 2 割前後で続き、マイカーと比べた移動範囲や時間の制約がバス利用を阻害していると考えられる。
- 居住地別にみると、道外では「車で移動する以外の選択肢を考えたことがない」割合は 52.3%まで下がり、半数弱は「車以外の選択肢も考えたことはある」といえる。しかし、観光等に当たっての不便さや制約を考慮し、レンタカーを選択する方が多いと考えられる。

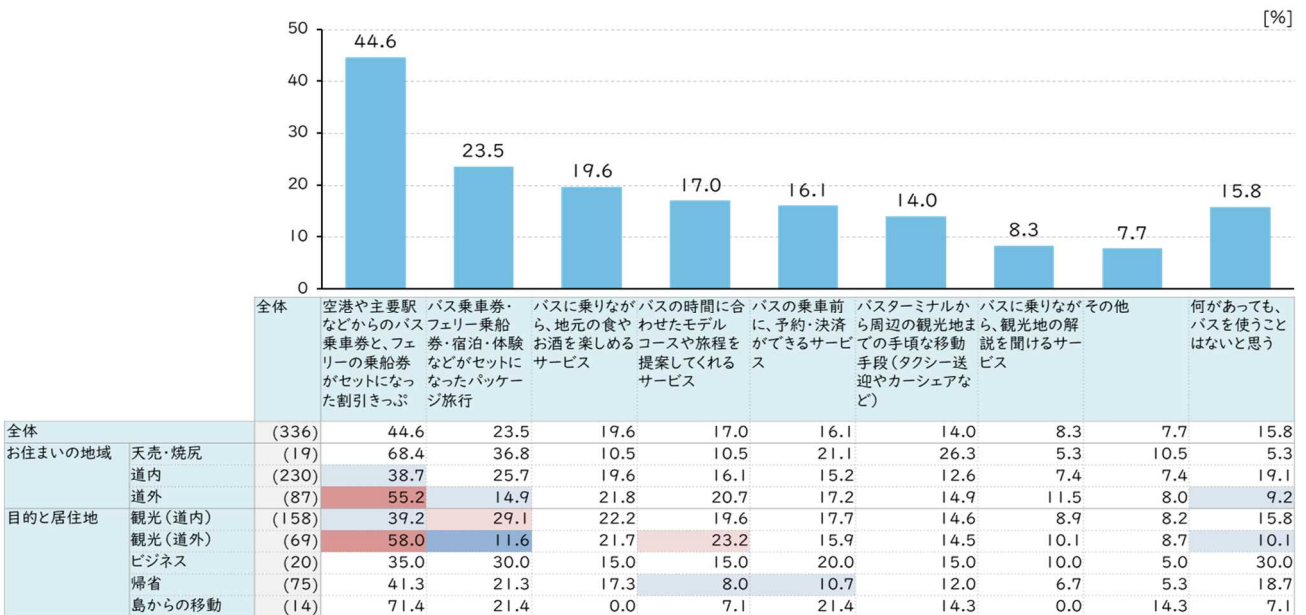
Q13. Q11 で「路線バス・高速バス」を【選ばなかった方】にお聞きします。バスを選ばなかった理由をすべてお選びください。



バス利用の意向

- 「こんなサービスがあれば、バスを使ってみたい」と思うサービスを複数提示して尋ねたところ、「港や主要駅などからのバス乗車券とフェリー乗船券がセットになった割引きっぷ」が 44.6%と最も高く、「バス乗船券・フェリー乗船券・宿泊・体験などがセットになったパッケージ旅行」が 23.5%、「バスに乗りながら地元の食やお酒を楽しめるサービス」が 19.6%と続いた。
- フェリー乗船券に対して付加価値を付けたり、羽幌町までの移動をコンテンツ化することへの希望が高く、事業者連携を要する付加価値の構築が求められるような選択肢で、関心が高くなった。

Q14. 「こんなサービスがあれば、バスを使ってみたい」と思うことはありますか。あれば、すべてお選びください。

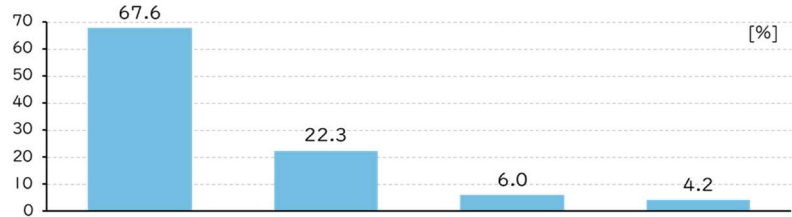


④ フェリーの利用について

利用目的

- 乗船目的は「観光」が67.6%と圧倒的に多く、次いで「島に住む家族・親戚・知人に会うため」が22.3%となった。
- 帰省や親戚・知人等に会うための移動も観光に含まれることが多く、広義には9割以上が観光客となる。
- ビジネスは6.0%、島民の移動は4.2%と、いずれも低くなった。

Q15. 今回乗船された目的をお知らせください。

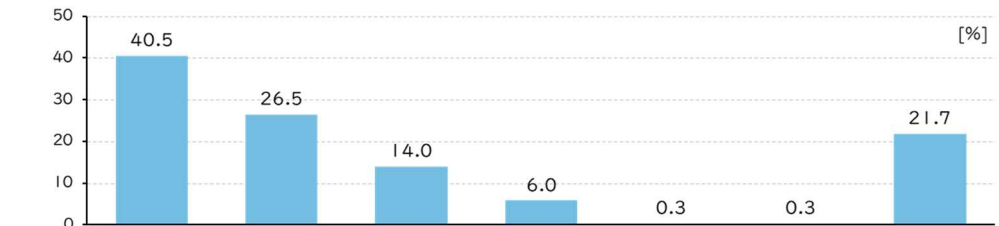


		全体	観光	島に住む家族・親戚・知人に会うため	ビジネス	島に住んでおり、本土に行くため
全体		(336)	67.6	22.3	6.0	4.2
お住まいの地域	天売・焼尻	(19)	10.5	5.3	10.5	73.7
	道内	(230)	67.8	24.8	7.4	0.0
	道外	(87)	79.3	19.5	1.1	0.0
目的と居住地	観光(道内)	(158)	100.0	0.0	0.0	0.0
	観光(道外)	(69)	100.0	0.0	0.0	0.0
	ビジネス	(20)	0.0	0.0	100.0	0.0
	帰省	(75)	0.0	100.0	0.0	0.0
	島からの移動	(14)	0.0	0.0	0.0	100.0
Q6 お住まいの地域	天売島	(11)	18.2	9.1	9.1	63.6
	焼尻島	(8)	0.0	0.0	12.5	87.5
	羽幌町(本土)	(15)	60.0	13.3	26.7	0.0
	道内(羽幌町以外)	(215)	68.4	25.6	6.0	0.0
	道外	(87)	79.3	19.5	1.1	0.0

同行者

- 同乗者は「家族・親戚」が40.5%と最も多く、「配偶者・恋人・パートナー」(26.5%)、「友人・知人」(14.0%)と続く。
- 1名での乗船は21.7%と3番目に多く、特に道外からの観光客では33.3%と「家族・親戚」よりも多い。
- ツアー団体は0.3%と少なく、実地調査期間(8月10~16日)も、団体旅行らしき集団はみられなかった(学生団体の利用はあった)。

Q16. 今回、一緒にフェリーに乗っている方はいますか。

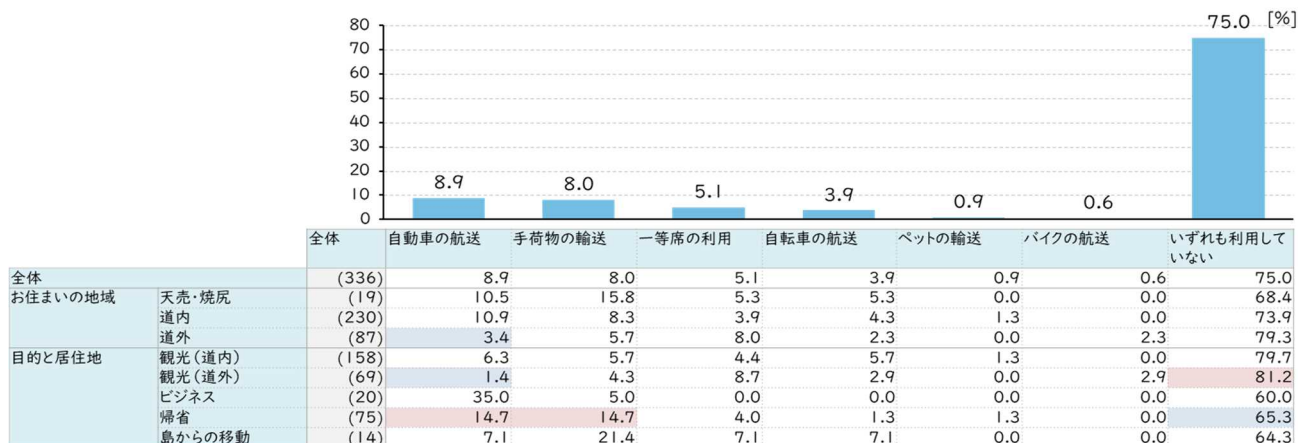


		全体	家族・親戚	配偶者・恋人・パートナー	友人・知人	職場の同僚	ツアー団体	その他	一緒に乗っている人はいない(1人で乗っている)
全体		(336)	40.5	26.5	14.0	6.0	0.3	0.3	21.7
お住まいの地域	天売・焼尻	(19)	21.1	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	63.2
	道内	(230)	47.0	28.3	13.9	8.3	0.4	0.4	14.3
	道外	(87)	27.6	24.1	17.2	1.1	0.0	0.0	32.2
目的と居住地	観光(道内)	(158)	40.5	31.0	17.7	3.8	0.6	0.0	17.1
	観光(道外)	(69)	21.7	26.1	21.7	0.0	0.0	0.0	33.3
	ビジネス	(20)	5.0	0.0	0.0	65.0	0.0	5.0	30.0
	帰省	(75)	70.7	26.7	5.3	1.3	0.0	0.0	10.7
	島からの移動	(14)	21.4	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	64.3

付帯サービスの利用

- 航送・手荷物輸送等の付帯サービスは、「いずれも利用していない」が75.0%と、ほとんどの方が利用していない結果となった。
- サービスを利用した方の中では、自動車の航送が8.9%と最も多く、次いで手荷物の配送が8.0%と続いた。
- 焼尻めん羊祭り開催日は、混雑緩和のためにフェリーの一等席が無料開放されており、追加料金なしで一等席を利用した方も一定数存在する。

Q17. 今回の乗船にあたり、利用したサービスをすべてお選びください。



⑤ 島での観光について

島での滞在日数

- 天売島、焼尻島への滞在は、日帰りと宿泊の比率が天売島で 31.8%／21.4%、焼尻島で 49.7%／24.1%といずれも日帰りの方が多くなった。
- 天売島の方が来訪者数は少ないが宿泊の比率は高い。
- 道内と道外を比較すると、天売島では、道外客の方が宿泊の割合が約 2 倍高くなった。焼尻島ではそういった傾向はみられず、道内外ともに日帰りが多い結果となった。

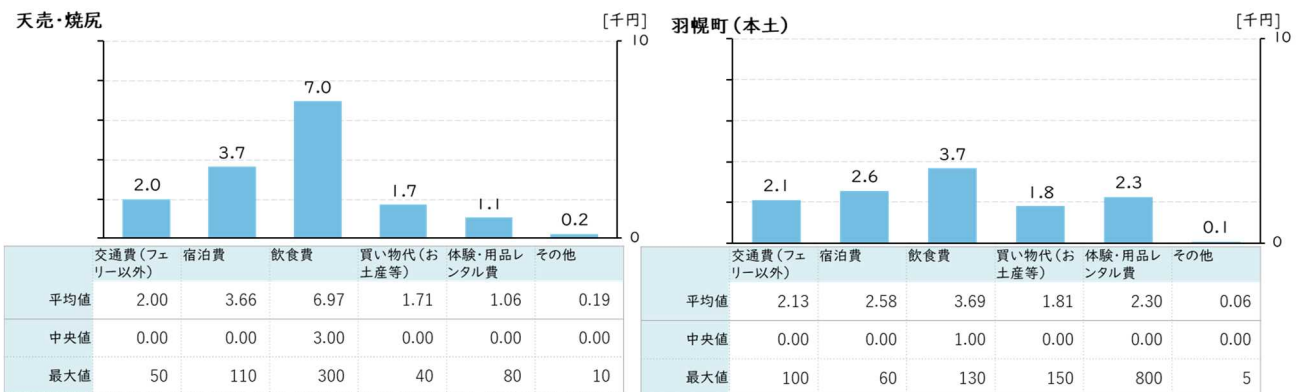
Q18～20. 【島民以外】の方にお聞きします。あなたが今回訪問する島と、滞在日数をお知らせください。

【天売島】		全体	日帰り	宿泊	滞在しない	
全体		(336)		31.8	21.4	46.7
お住まいの地域	天売・焼尻	(19)		5.3	5.3	89.5
	道内	(230)		33.5	17.8	48.7
	道外	(87)		33.3	34.5	32.2
目的と居住地	観光(道内)	(158)		36.1	13.9	50.0
	観光(道外)	(69)		40.6	31.9	27.5
	ビジネス	(20)		35.0	20.0	45.0
	帰省	(75)		20.0	32.0	48.0
	島からの移動	(14)		0.0	0.0	100.0
【焼尻島】						
全体		(336)		49.7	24.1	26.2
お住まいの地域	天売・焼尻	(19)		5.3	5.3	89.5
	道内	(230)		54.3	24.3	21.3
	道外	(87)		47.1	27.6	25.3
目的と居住地	観光(道内)	(158)		66.5	20.9	12.7
	観光(道外)	(69)		46.4	30.4	23.2
	ビジネス	(20)		40.0	20.0	40.0
	帰省	(75)		28.0	30.7	41.3
	島からの移動	(14)		7.1	0.0	92.9
【その他道内】						
全体		(336)		54.5	45.5	
お住まいの地域	天売・焼尻	(19)		47.4	52.6	
	道内	(230)		72.2	27.8	
	道外	(87)		9.2	90.8	
目的と居住地	観光(道内)	(158)		67.1	32.9	
	観光(道外)	(69)		7.2	92.8	
	ビジネス	(20)		75.0	25.0	
	帰省	(75)		66.7	33.3	
	島からの移動	(14)		50.0	50.0	

消費額

- 天売島・焼尻島の消費額をみると、「飲食費」が最も高く平均約 7 千円、次いで宿泊費が 3.7 千円、交通費が約 2.0 千円となった。宿泊費が少なかった要因としては、日帰りが多いことに加え、キャンプ場や実家の利用が多かったことも考えられる。
- 天売・焼尻での飲食費の方が、羽幌町(本土)の平均 3.7 千円よりも約 1.8 倍高くなった。一方で、「体験・用品レンタル費」は本土で平均約 2.3 千円と、天売・焼尻の約 1.1 千円の倍となった。

Q21～22. 【島民以外】の方にお聞きます。今回の訪問にあたり、天売・焼尻を含む、羽幌町内で消費した 1 人あたりの金額を千円単位でお知らせください(これから消費する予定の分も含めて、ご記入ください)。

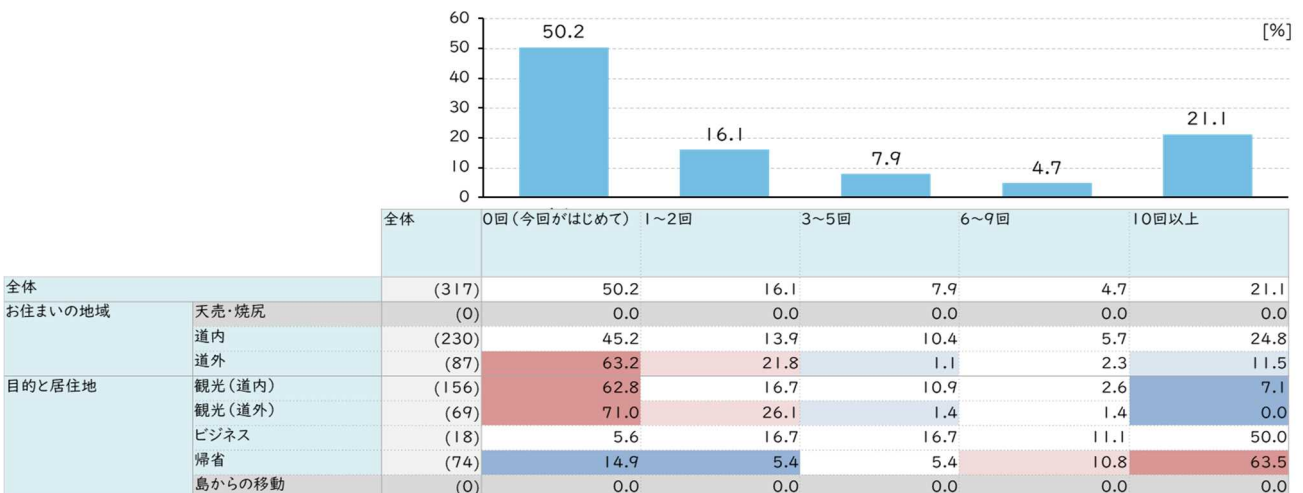


※千円単位(例:1 万円の場合「10」と入力)の回答をお願いしたが、1 円単位での回答も目立ったため、不自然な数字は補正している(例:「1000」→「1000 千円(100 万円)」ではなく「1 千円」として集計)。

来訪頻度

- 天売島・焼尻島への訪問回数は、「今回がはじめて」の方が 50.2%と最も多く、次いで「10 回以上」が 21.1%、「1～2 回」が 16.1%となった。
- 道内外を比較すると道外で「今回が初めて」との割合が 63.2%と高い一方で、道内客の 24.8%が「10 回以上」と、道内の方が来訪経験の多い方が多くなった。帰省客の比率が高いことも要因として考えられる。

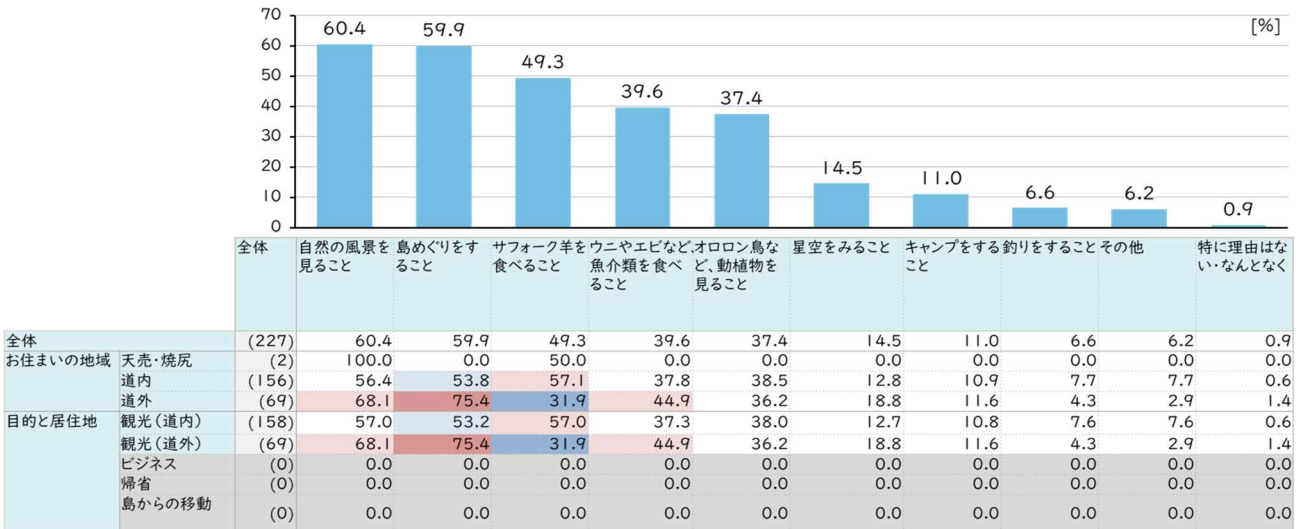
Q23. 【島民以外】の方にお聞きます。これまでに天売・焼尻を訪れた回数をお知らせください。



来訪目的

- 観光を目的とした来訪では「自然の風景を見ること」が 60.4%、次いで「島めぐりをすること」が 59.9%、「サフォーク羊を食べること」が49.3%、「ウニやエビなど魚介類を食べること」が39.6%と続く。島がもつ景観や特産品などの食を目的とした地域の風土や文化を目的とした来訪が目立つ。
- 道内外を比較すると、道外客で自然景観や島めぐりに関する比率が高く、道内では「サフォーク羊」がやや多くなった。
 - 自由記述の内容をみると、めん羊牧場閉鎖の報道をきっかけに、焼尻めん羊祭りに参加した方が一定数存在するとみられる。

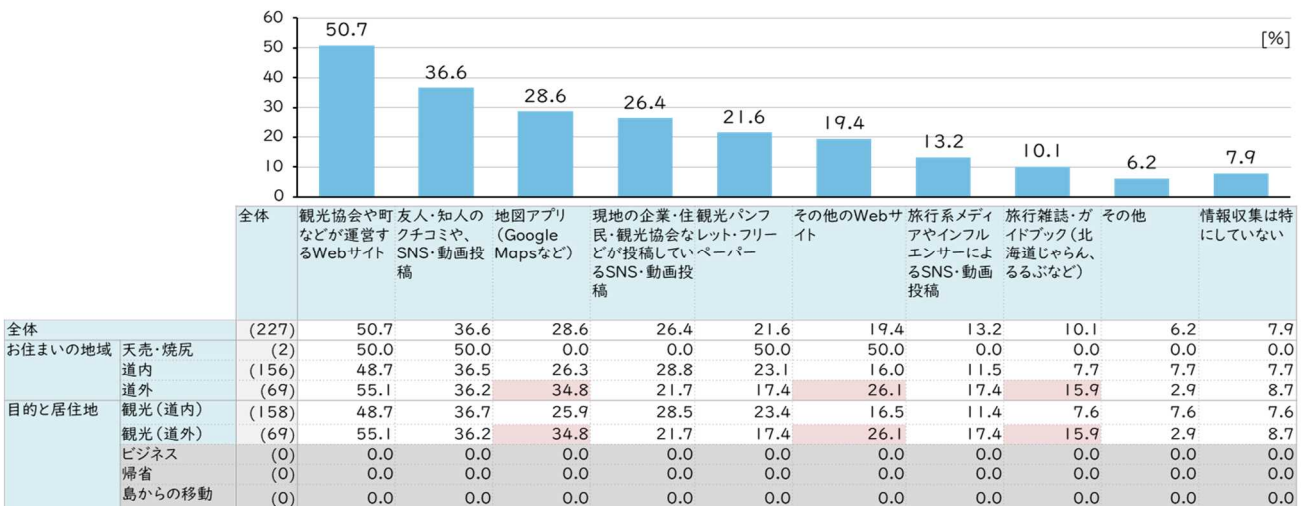
Q24. 【観光目的】で乗船された方にお聞きます。旅行の目的をすべてお選びください。



情報収集手段

- 「観光協会や町の Web サイト」を活用して情報収集を行っている割合が 50.7%と最も高く、「友人・知人のクチコミや、SNS・動画投稿」が 36.6%、「地図アプリ(Google Maps など)」が 28.6%と続いている。
- 居住地による地域差はほとんど見られずいずれも「観光協会や町の Web サイト」が最多となった。

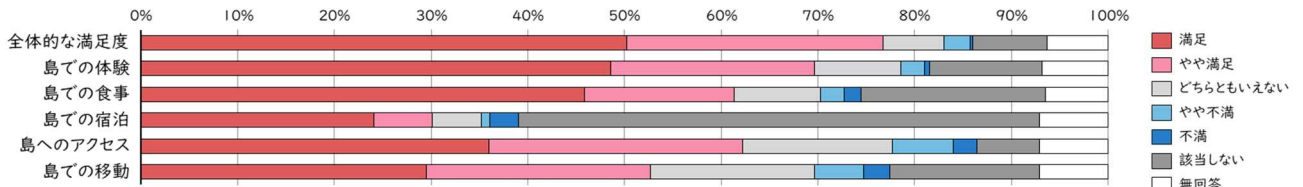
Q25. 【観光目的】で乗船された方にお聞きます。来島前にどのように情報収集をしましたか(すべてにチェック)。



島での滞在の満足度

- 全体的な満足度は 50.3%が「満足」と回答しており、島での体験や食事にも「満足」の割合はそれぞれ 48.5%、45.8%と、満足度が高い傾向。
- 全的な満足度では「不満」「やや不満」を選択した人がそれぞれ 0.3%、2.7%と非常に少ない一方で、「島へのアクセス」「島での移動」に対する「不満」「やや不満」の割合は、それぞれ 1割弱と若干高くなっている。

Q26. 帰り便に乗船された方は、今回の天売・焼尻での滞在について、それぞれの項目の満足度をお知らせください。

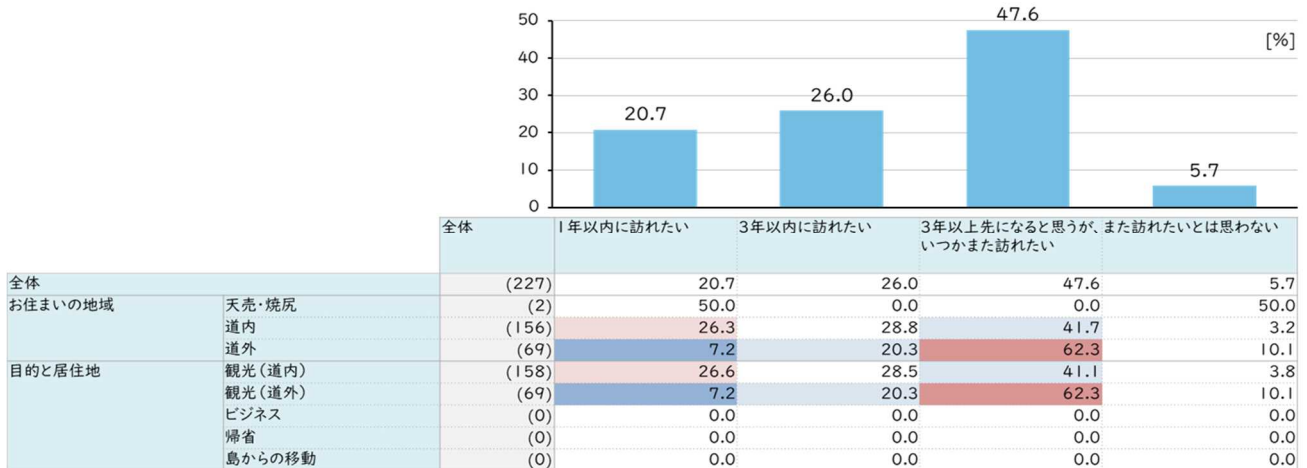


【全体的な満足度】		全体	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	該当しない	無回答	
全体		(336)	50.3	26.5	6.3	2.7	0.3	7.7	6.3	
お住まいの地域	天売・焼尻	(19)	15.8	26.3	10.5	0.0	5.3	31.6	10.5	
	道内	(230)	52.6	27.4	6.5	3.0	0.0	5.2	5.2	
	道外	(87)	51.7	24.1	4.6	2.3	0.0	9.2	8.0	
目的と居住地	観光(道内)	(158)	52.5	32.3	3.2	3.2	0.0	3.8	5.1	
	観光(道外)	(69)	50.7	27.5	2.9	2.9	0.0	10.1	5.8	
	ビジネス	(20)	30.0	25.0	25.0	5.0	0.0	15.0	0.0	
	帰省	(75)	58.7	16.0	9.3	1.3	0.0	5.3	9.3	
	島からの移動	(14)	7.1	14.3	14.3	0.0	7.1	42.9	14.3	
【島での体験】		全体	(336)	48.5	21.1	8.9	2.4	0.6	11.6	6.8
お住まいの地域	天売・焼尻	(19)	21.1	10.5	15.8	0.0	5.3	36.8	10.5	
	道内	(230)	51.7	23.0	9.1	2.2	0.4	8.3	5.2	
	道外	(87)	46.0	18.4	6.9	3.4	0.0	14.9	10.3	
目的と居住地	観光(道内)	(158)	52.5	26.6	7.6	2.5	0.6	5.1	5.1	
	観光(道外)	(69)	44.9	20.3	7.2	4.3	0.0	14.5	8.7	
	ビジネス	(20)	20.0	15.0	40.0	0.0	0.0	20.0	5.0	
	帰省	(75)	57.3	16.0	4.0	1.3	0.0	13.3	8.0	
	島からの移動	(14)	14.3	0.0	14.3	0.0	7.1	50.0	14.3	
【島での食事】		全体	(336)	45.8	15.5	8.9	2.4	1.8	19.0	6.5
お住まいの地域	天売・焼尻	(19)	10.5	5.3	26.3	0.0	5.3	42.1	10.5	
	道内	(230)	47.0	18.7	9.1	2.6	2.2	15.2	5.2	
	道外	(87)	50.6	9.2	4.6	2.3	0.0	24.1	9.2	
目的と居住地	観光(道内)	(158)	47.5	20.3	7.0	1.9	2.5	15.8	5.1	
	観光(道外)	(69)	46.4	10.1	5.8	2.9	0.0	27.5	7.2	
	ビジネス	(20)	30.0	20.0	25.0	5.0	5.0	10.0	5.0	
	帰省	(75)	54.7	12.0	8.0	2.7	0.0	14.7	8.0	
	島からの移動	(14)	0.0	0.0	28.6	0.0	7.1	50.0	14.3	
【島での宿泊】		全体	(336)	24.1	6.0	5.1	0.9	3.0	53.9	7.1
お住まいの地域	天売・焼尻	(19)	10.5	5.3	21.1	0.0	5.3	47.4	10.5	
	道内	(230)	24.3	6.1	3.9	0.4	3.5	56.1	5.7	
	道外	(87)	26.4	5.7	4.6	2.3	1.1	49.4	10.3	
目的と居住地	観光(道内)	(158)	20.9	5.7	2.5	0.0	2.5	62.7	5.7	
	観光(道外)	(69)	29.0	7.2	2.9	2.9	1.4	49.3	7.2	
	ビジネス	(20)	20.0	5.0	20.0	0.0	15.0	35.0	5.0	
	帰省	(75)	32.0	5.3	5.3	1.3	1.3	45.3	9.3	
	島からの移動	(14)	0.0	7.1	21.4	0.0	7.1	50.0	14.3	
【島へのアクセス】		全体	(336)	36.0	26.2	15.5	6.3	2.4	6.5	7.1
お住まいの地域	天売・焼尻	(19)	15.8	15.8	21.1	5.3	10.5	21.1	10.5	
	道内	(230)	39.1	27.4	16.1	6.1	0.9	4.3	6.1	
	道外	(87)	32.2	25.3	12.6	6.9	4.6	9.2	9.2	
目的と居住地	観光(道内)	(158)	40.5	29.7	12.7	6.3	0.0	3.8	7.0	
	観光(道外)	(69)	30.4	29.0	11.6	7.2	5.8	8.7	7.2	
	ビジネス	(20)	25.0	35.0	25.0	5.0	5.0	5.0	0.0	
	帰省	(75)	40.0	17.3	21.3	5.3	1.3	6.7	8.0	
	島からの移動	(14)	7.1	7.1	21.4	7.1	14.3	28.6	14.3	
【島での移動】		全体	(336)	29.5	23.2	17.0	5.1	2.7	15.5	7.1
お住まいの地域	天売・焼尻	(19)	5.3	15.8	15.8	10.5	5.3	36.8	10.5	
	道内	(230)	30.9	23.9	17.0	5.7	3.5	13.5	5.7	
	道外	(87)	31.0	23.0	17.2	2.3	0.0	16.1	10.3	
目的と居住地	観光(道内)	(158)	32.3	26.6	13.3	6.3	1.3	13.9	6.3	
	観光(道外)	(69)	29.0	27.5	18.8	2.9	0.0	13.0	8.7	
	ビジネス	(20)	10.0	15.0	50.0	10.0	5.0	10.0	0.0	
	帰省	(75)	34.7	17.3	14.7	1.3	6.7	17.3	8.0	
	島からの移動	(14)	0.0	7.1	14.3	14.3	7.1	42.9	14.3	

再訪意向

- 天売・焼尻への再訪意向を尋ねたところ、「3年以上先になると思うが、いつかまた訪れたい」と回答しているのは47.6%と最も多く、「3年以内に訪れたい」が26.0%、「1年以内に訪れたい」が20.7%と、再訪意向がある層は観光客全体の94.3%となった。
- 道内外を比較すると、道外で「3年以上先になると思うが、いつかまた訪れたい」の割合が62.3%と特に高く、アクセスの不便さが再訪意向に影響していると考えられる。

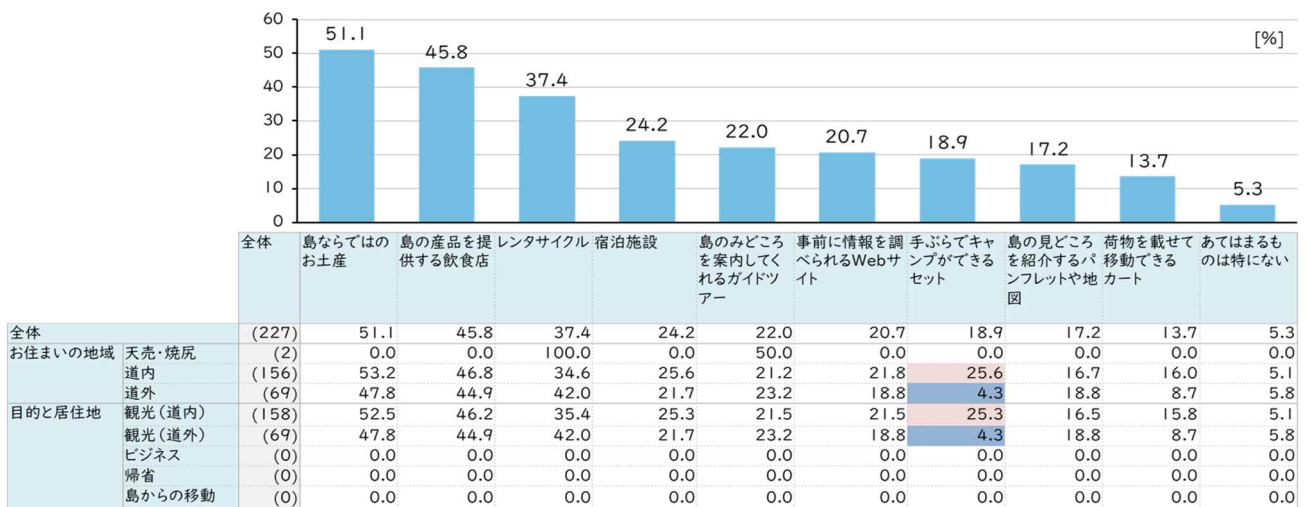
Q27. あなたは、今後天売島・焼尻島を訪れたいと思いますか。



島の観光へのニーズ

- 観光目的で訪れた方に天売島・焼尻島に「あったら良い」「もっと充実させてほしい」と思うサービスや商品を探ねたところ、「島ならではのお土産」が51.1%と最も多く、「島の産品を提供する飲食店」(45.8%)、「レンタサイクル」(37.4%)と続いた。
- ほとんどの項目で道内外の差は見受けられなかったが「手ぶらでキャンプができるセット」については道内が25.3%に対して道外が4.3%となった。キャンプ目的での来訪は、道内の方が多くと考えられる。

Q28 天売島・焼尻島を訪れるときに、あったら良い・もっと充実させてほしいと思うサービスや商品はありますか。



(2) 羽幌港実地調査

全体集計

羽幌港フェリーターミナルの駐車場に、お盆期間を含む 8 月 10 日から 16 日に入場した車両の種類を、以下の 4 種類に区分してカウントし、集計した。

- ・ 普通乗用車：レンタカーを除く普通乗用車（従業員の通勤や、荷物の積み下ろし等に用いられるものも含む）
- ・ レンタカー：普通乗用車のうち、「わナンバー」と「れナンバー」のもの
- ・ 二輪：原付・二輪（自転車は含まない）
- ・ 大型等：軽トラックを含む貨物用車両、準中型・中型・大型車両（キャンピングカー等、バス等も含む）

なお、各日程の調査時間帯は、朝 7 時と「1 便出航時間の 1 時間前」のうち早い方から、17 時までとした。

集計結果は表 9 および図 27 のとおりとなり、旭川ナンバーの入場が全体の約 6 割を占めた。フェリーターミナルで働く方（羽幌沿海フェリー・食堂等の従業員）や荷物の積み下ろし等も含まれるが、観光・帰省においても近隣地域からの来訪が多いと考えられる。

表 9 車種・入場日・時間帯別の車両台数

	総計	普通乗用車	レンタカー	二輪	大型等	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16
						229	356	465	488	402	325	190
合計	2,455	1,934	68	205	248	229	356	465	488	402	325	190
旭川	1,402	1,121	21	43	217	168	196	227	244	216	218	133
札幌	687	596	35	43	13	30	113	157	164	122	67	34
その他道内	161	129	10	13	9	13	24	38	34	29	17	6
室蘭	44	39	2	1	2	5	6	15	4	8	4	2
苫小牧	23	17	2	0	4	1	8	4	6	3	1	0
函館	15	8	1	5	1	2	1	5	3	2	2	0
北見	30	23	2	4	1	3	3	6	9	2	6	1
知床	2	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
釧路	12	10	0	2	0	0	2	3	2	3	1	1
帯広	35	30	3	1	1	2	4	4	9	11	3	2
道外	205	88	2	106	9	18	23	43	46	35	23	17
東北	26	9	1	15	1	2	2	11	0	5	4	2
関東	95	38	1	50	6	9	10	21	21	16	9	9
中部	43	25	0	17	1	2	6	6	13	4	8	4
近畿	34	11	0	22	1	4	5	5	9	8	1	2
中国	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0
四国	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
九州	4	4	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0

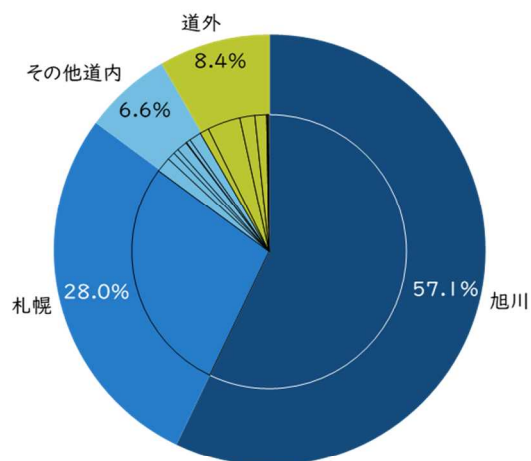
	総計	6 時台	7 時台	8 時台	9 時台	10 時台	11 時台	12 時台	13 時台	14 時台	15 時台	16 時台
		140	321	166	217	311	275	321	340	184	120	60
合計	2,455	140	321	166	217	311	275	321	340	184	120	60
旭川	1,402	78	187	102	104	162	142	182	201	127	78	39
札幌	687	38	92	42	70	100	86	89	83	44	27	16
その他道内	161	9	21	11	18	18	17	22	26	8	8	3
室蘭	44	3	5	2	1	6	8	7	6	4	1	1
苫小牧	23	0	0	1	5	4	2	5	5	0	1	0
函館	15	1	4	1	2	1	0	0	3	1	0	2
北見	30	0	3	1	4	5	3	7	4	1	2	0
知床	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
釧路	12	1	4	0	3	0	0	1	1	2	0	0
帯広	35	3	5	6	3	2	3	2	7	0	4	0
道外	205	15	21	11	25	31	30	28	30	5	7	2
東北	26	2	4	0	6	2	4	1	4	1	2	0
関東	95	8	7	6	14	14	16	16	9	2	2	1
中部	43	0	6	3	3	8	8	4	6	1	3	1
近畿	34	3	3	2	1	4	2	7	11	1	0	0
中国	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
四国	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
九州	4	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0

車種別にみると、レンタカーは札幌ナンバーが多く、新千歳空港を利用して来道した道外の方や、札幌圏に居住して自家用車を持たない方の利用が考えられる。大型車両等は旭川ナンバーが 87.5% を占め、調査を行った中でも地元企業等による貨物の輸送が目立った。少数ながらキャンピングカーで来訪する方も含まれており、札幌や道内各地、道外などから訪れている。

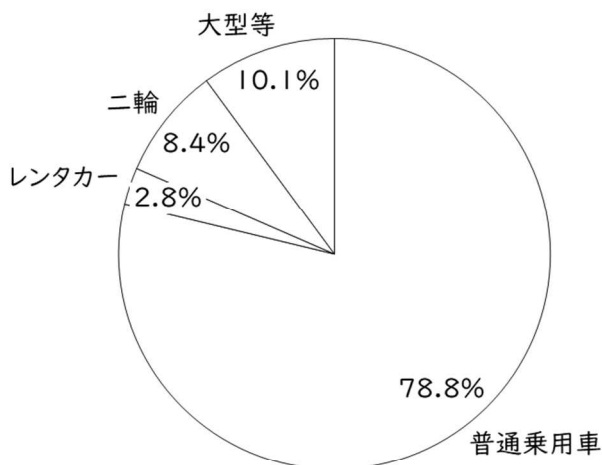
二輪では過半数の 51.7% が道外となり、道外在住の方がフェリー等で愛車を持ち込み、北海道内でもツーリングを楽しんでいるものとみられる。

図 27 集計結果の概要

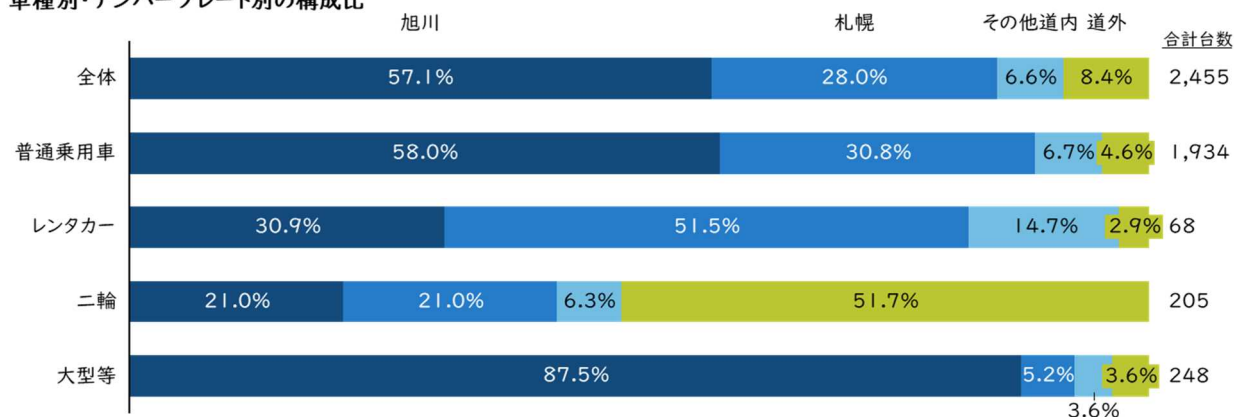
ナンバープレート別の構成比



車種別の構成比



車種別・ナンバープレート別の構成比

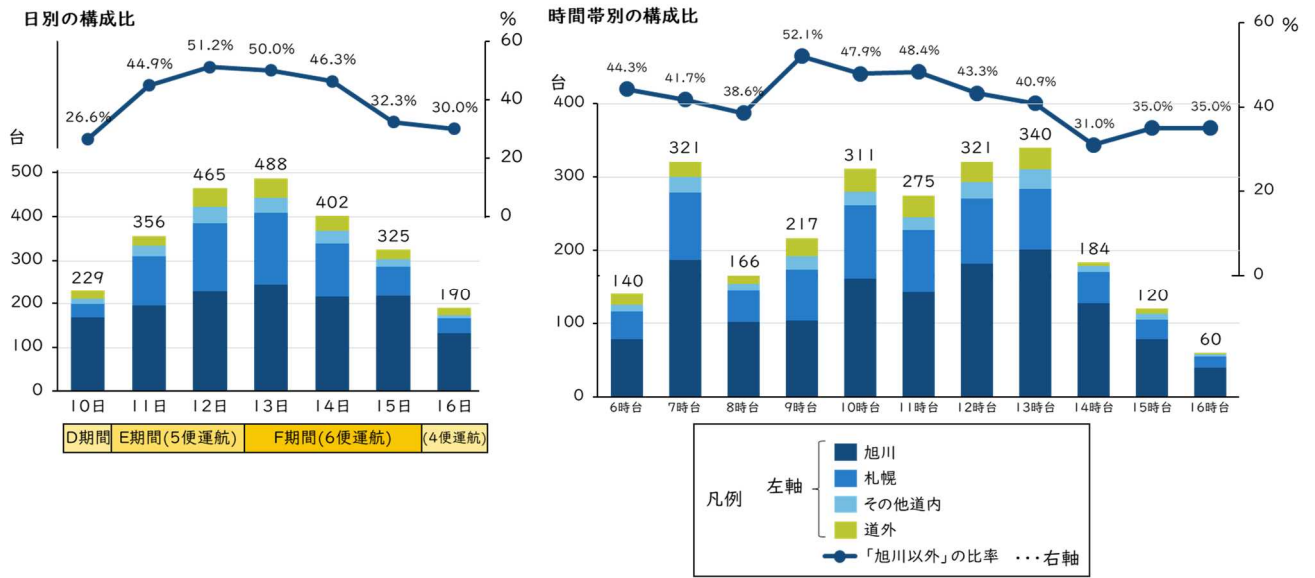


日別・時間帯別の動向を、図 28 のとおり整理した。日別では、13 日が 488 台と最も多く、12 日の 465 台が続き、お盆期間の利用が多いことが確認できた。時間帯別では、7 時台と 12~13 時台の 2 つのピークが見受けられた。7 時台は、7~8 時台のフェリー・高速船を利用するための来訪が多いと考えられるが、12~13 時台には羽幌港フェリーターミナル内の「浜の母ちゃん食堂 (7~8 月営業)」を目的とした来訪も一定程度含まれると考えられる。

棒グラフはナンバープレートを、折れ線グラフは、「旭川以外」の比率を表す。車の台数が特に多い 8 月 11 日から 14 日にかけて、「旭川以外」の割合が 4~5 割前後で推移し、域外からの来訪によって羽幌港への来訪が増えている傾向が確認できた。

時間帯別にみても、おおむね台数が多い時間帯と、「旭川以外」の比率には相関関係が見受けられる。

図 28 日別・時間帯別の動向



(3) ワーキンググループ開催概要

離島航路活性化に関する現状・課題を共有し、より具体的で効果的な施策の検討を行うため、関係者による「天売焼尻航路の活性化に向けたワーキンググループ」を設置し、年度内に3回開催した。

ワーキンググループの構成メンバーは以下の通り。

<p><ワーキンググループのメンバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道運輸局 交通政策部 ・ 羽幌町町民課 ・ 羽幌町商工観光課 ・ 羽幌町観光協会 ・ 羽幌沿海フェリー株式会社 ・ 沿岸バス株式会社 <p>(オブザーバー) ※第2回より参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旭川運輸支局 ・ 環境省 羽幌自然保護官事務所 (事務局) ・ 株式会社 JTB 総合研究所

各回の実施概要は、表 10 のとおり。

表 10 ワーキンググループの開催概要

第1回	
日時	2023年7月18日(火)14時~16時
開催方法	オンライン(Zoom Meetings)
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 天売焼尻航路活性化に向けて、現状と課題を共有する ● 施策のイメージをふまえ、1年間の間に調査・検討すべきことを確認する
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ・自己紹介 2. 本事業の趣旨、概要の説明 3. 現状共有 4. 調査内容について意見交換 5. 施策イメージの紹介
第2回	
日時	2023年10月5日(木)13時30分~15時30分
会場	羽幌町役場 会議室
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査結果を共有し、航路活性化に向けた課題を整理する ● 課題解決のために、誰がどんなことをできるか議論する
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調査結果の中間報告と課題の概要 2. 調査結果・課題に対する意見交換 3. アイデア集に対する意見交換
第3回	
日時	2024年1月17日(水)13時~15時00分
会場	羽幌町役場 会議室
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度以降の具体的な取組に向けて、「まずできること」を明確にする ● 今回のWGメンバーが今後も連携できる体制や取組を協議する
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目標・ロードマップについて検討 2. 次年度取り組みたいこと 3. 地域公共交通共創モデル事業にゆいて有識者による講評・閉会あいさつ